SONY

3-084-997-**04** (1)

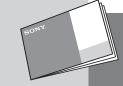
取扱説明書

サイバーショット応用編／困ったときは

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット基本編」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

InfoLITHIUM TM M SERIES

DSC-F828

操作の前に

静止画を撮る（応用）

静止画を見る（応用）

静止画を編集する

静止画をプリントする
（PictBridge対応プリンター）

動画を撮る

パソコンで楽しむ

困ったときは

その他

用語の解説／索引

別冊の
「サイバーショット基本編」
もご覧ください。

目次

操作の前に

本機の設定／操作のしかた 5
メニューの設定を変える 5
SET UP画面で設定を変える 6
コマンドダイヤルの使いかた 6
静止画の画質を決める 7
フォルダを作成／選択する 8
新しいフォルダを作る 8
記録フォルダを選択する 9

静止画を撮る（応用）

場面から選ぶマニュアル撮影 10

露出（シャッタースピード・絞り・ISO感度）

プログラムオートで撮る 12
プログラムシフト 12
シャッタースピード優先で撮る 13
絞り優先で撮る 15
マニュアル露出で撮る 16
測光モードを選ぶ 17
露出を補正する ー EV補正 18
ヒストグラムを表示する 19
露出を固定して撮る
ー AE LOCK 21
最適な露出を探す ー ブラケット 22
感度を変える ー ISO 23

ピント合わせ

オートフォーカスの方法を選ぶ 24
ピント合わせの測距枠を選ぶ
ー AF測距 24
ピント合わせの動作を選ぶ
ー AFモード 25
手動でピントを合わせる 26

フラッシュ

フラッシュモードを選ぶ 27
フラッシュレベルを選ぶ
ー フラッシュレベル 30
外部フラッシュを使う 30
ソニー製専用フラッシュを使う 31
市販のフラッシュを使う 31

色

色合いを調節する
ー ホワイトバランス 32
画像の色合いを選ぶ ー 色再現 34

連写

連写する 34
マルチ連写で画像を撮る
ー マルチ連写 35

その他

暗闇で撮る 36
NIGHTSHOT
（ナイトショット）................37
NIGHTFRAMING
（ナイトフレーミング）.........37
画像に特殊効果を加えて撮る
ー ピクチャーエフェクト 38
RAWデータで撮る
ー RAWモード 39
画像を圧縮せずに撮る
ー TIFFモード 40
Eメール添付用の画像を撮る
ー Eメール 40
画像に音声を記録する
ー ボイスメモ 41

静止画を見る（応用）

フォルダを選択して再生する
　　— フォルダ 42
静止画の一部を拡大する 43
　画像を拡大する — 再生ズーム 43
　拡大した画像を記録する
　　— トリミング 44
連続して再生する
　　— スライドショー 44
静止画を回転する — 回転 45
マルチ連写の画像を再生する 46
　連続して再生する 46
　1コマずつ再生する 46

静止画を編集する

画像を保護する — プロテクト 48
画像のサイズを変える
　　— リサイズ 49
プリントしたい画像を選ぶ
　　— プリント予約マーク 50

静止画をプリントする（PictBridge対応プリンター）

PictBridge規格対応のプリンターと
　　接続する 52
画像をプリントする 53
画像をインデックスプリントする 56

動画を撮る

動画を撮る 59
画面で動画を見る 60
動画を削除する 61
動画を編集する 62
　動画を分割する 63
　動画の不要な部分を削除する 64

パソコンで楽しむ

「Image Transfer」をインストール
　　する 65
「Image Transfer」で画像をコピー
　　する 67
「Image Transfer」の設定を変更
　　する 69
「ImageMixer」をインストール
　　する 69
　Windowsの場合 69
　Macintoshの場合 71
「ImageMixer」で画像を取り込む
　　.. 71
　Windowsの場合 71
　Macintoshの場合 72
「ImageMixer」で画像を見る 73
　Windowsの場合 73
　Macintoshの場合 74
「ImageMixer」で画像を印刷する
　　.. 74
　Windowsの場合 74
　Macintoshの場合 75
「ImageMixer」でビデオCDを作成
　　する 76

困ったときは

故障かな？と思ったら 77
警告表示について 91
自己診断表示
　ー アルファベットで始まる表示
　が出たら 95

その他

記録枚数／時間について 96
メニュー項目について 99
SET UP項目について 103
使用上のご注意 107
“ メモリースティック ”について .. 109
マイクロドライブについて 110
InfoLITHIUM（インフォリチウム）
　バッテリーについて 111
主な仕様 112
保証書とアフターサービス 114
表示窓の表示 115
画面上の表示 116
機能早見表 120

用語の解説／索引

用語の解説 123
索引 126

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊基本編 ➡ ページ番号**」のようにご案内しています。

メニューの設定を変える

ここでは、メニューやSET UP画面の使いかたをまとめて説明します。メニューもSET UP画面も項目や設定をマルチセレクターで選んで設定します。

• モードダイヤルについて詳しくは、**別冊基本編** ➡ 26ページをご覧ください。

1 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

2 マルチセレクターを◀/▶に動かし、設定したい項目を選ぶ

3 マルチセレクターを▲/▼に動かし、設定を選ぶ

選ばれた設定の枠が拡大され、そのまま決定されます。

項目の上に▲マーク、下に▼マークがついているときは

画面に表示されていない項目があります。マルチセレクターを▲/▼に動かすと表示されます。

メニュー表示をやめるには

MENUボタンを押します。

• グレー表示の項目は選ぶことができません。
• メニュー項目について詳しくは、99ページをご覧ください。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

2 マルチセレクターを▲/▼/◀/▶に動かし、設定したい項目を選ぶ

選ばれた設定の枠が黄色に変わります。

3 マルチセレクターの中央を押し、設定（実行）する

SET UP画面表示をやめるには

モードダイヤルを「SET UP」以外にしてください。

- SET UP項目について詳しくは、103ページをご覧ください。

コマンドダイヤルの使いかた

コマンドダイヤルの操作には、コマンドダイヤルを回すだけの操作とコマンドダイヤルを特定のボタンと組み合わせて使う操作の2つがあります。
ここでは、特定のボタンと組み合わせてコマンドダイヤルを使うときの方法を説明します。

この方法を使うのは、下記の機能になります。

- マニュアル露出（16ページ）
- 測光モード（17ページ）
- 露出補正（18ページ）
- ブラケット（22ページ）
- フラッシュモード（27ページ）
- ホワイトバランス（32ページ）
- 連写（34ページ）
- マルチ連写（35ページ）
- NIGHTSHOT、NIGHTFRAMING（36ページ）

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 設定したいモードのボタンを押しながらコマンドダイヤルを回す

数値、モードは表示された状態で決定されます。

3 ボタンを離す

画面から表示が消えます。

- 下記の機能はコマンドダイヤルを回すだけで設定できます。
  —プログラムシフト（12ページ）
  —シャッタースピード優先（13ページ）
  —絞り優先（15ページ）
- 再生時のファイル送り/戻しもできます。

静止画の画質を決める

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN

静止画の画質を選ぶことができます。
画質（圧縮率）は［ファイン］（高画質）と［スタンダード］（標準）の2種類から選ぶことができます。
本機では、この画質の設定の他に、生データをそのまま記録する［RAWモード］（39ページ）、非圧縮画像を記録する［TIFFモード］（40ページ）、Eメール記録用の［Eメール］（40ページ）を［Mode］（撮影モード）より選ぶこともできます。

1 **モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする**

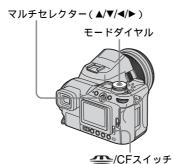
2 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［画質］（画質）、▲/▼で希望の画質を選ぶ**

フォルダを作成／選択する

モードダイヤル：SET UP

本機は記録メディアの中に複数のフォルダを作成することができます。また、入れたいフォルダを選択して記録できます。
新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダが記録フォルダとして設定されます。フォルダは最高で「999MSDCF」まで作成することができます。

- 1つのフォルダに記録できるのは最大4000枚です。フォルダ容量を越えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。

新しいフォルダを作る

1 **モードダイヤルを「SET UP」にして、/CFスイッチで記録メディアを選ぶ**

2 **▲/▼で［］（メモリースティックツール）または［］（CFカードツール）、▶/▲/▼で［記録フォルダ作成］、▶/▲で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す**

下記の画面が表示されます。

3 **▲で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す**

既存最大番号＋1のフォルダが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録されます。

フォルダ作成を中止するには

手順2または3で［キャンセル］を選んでください。

- 一度作成したフォルダを本機では削除することはできません。
- 撮影する画像は、違うフォルダを選択するか、さらに新しくフォルダを作成するまで、そのフォルダに記録されます。

1 モードダイヤルを「SET UP」にして、/CFスイッチで記録メディアを選ぶ

2 ▲/▼で［］（メモリースティックツール）または［］（CFカードツール）、▶/▼で［記録フォルダ変更］、▶/▲で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

記録フォルダ選択画面が表示されます。

3 ◀/▶で希望のフォルダを選び、▲で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

記録フォルダの変更を中止するには

手順2または3で［キャンセル］を選んでください。

- 「100MSDCF」フォルダは記録フォルダとして選ぶことはできません。
- 画像は選択した記録フォルダに記録されます。本機では記録した画像を別のフォルダに移動することはできません。

場面から選ぶマニュアル撮影

オートモードで撮影することに慣れたら、いろいろな撮影場面で、設定を変えて撮影してみましょう。ここでは、いくつかの撮影場面を参考に、代表的なマニュアル撮影の操作を紹介します。

Q 背景をぼかしたポートレートを撮るには？

➡ 絞り優先で撮る（15ページ）

背景をぼかして被写体を強調したい場合は、絞り値を手動で設定して撮影します。絞りを開く（絞り値を小さくする）ほど、ピントが合う範囲が狭くなるので、背景がぼけます。

Q 逆光でポートレートを撮るには？

➡ フラッシュモードを選ぶ（27ページ）

明るい場所では人物が暗く撮影されることがあります。これは背景が被写体よりも明るいためです。この場合は、フラッシュを⚡（強制発光）にすると、背景と被写体を明るく撮影することができます。

• フラッシュが届く範囲で使用できます。

Q 夜景を撮るには？

➡ シャッタースピード優先で撮る（13ページ）

静止画オート撮影でフラッシュを発光するとシャッタースピードが制限され、フラッシュも届かないため夜景がきれいに写りません。シャッタースピードを手動で遅くしてフラッシュを㊕（発光禁止）にし、EV補正で明るさを抑えると、夜景でもきれいに撮ることができます。

Q フラッシュを使用しないで撮影するには？

➡ **感度を変える**（23ページ）

フラッシュを使用できなかったり、シャッタースピードを遅くできない場合は、ISO感度を上げて撮影してみましょう。ISO感度を上げると周囲の光をいかして撮影することができます。

Q 動いている被写体を撮るには？

➡ **シャッタースピード優先で撮る**（13ページ）

動きのある人物や物を撮影する場合は、シャッタースピードを速くして動作の一瞬をとらえたり、シャッタースピードを遅くして、意図的に流れるような画像にします。シャッタースピードを活用して、肉眼では見えない瞬間を表現してみましょう。

Q きれいな夕焼けを撮るには？

➡ **色合いを調節する**（32ページ）

撮影した夕焼けの画像が自分の好みの色でない場合は、ホワイトバランスを変えて撮影してみましょう。ホワイトバランスを☀（太陽光）にすると夕焼けの赤みを強調することができます。

プログラムオートで撮る

モードダイヤル：P

プログラムオート撮影では、静止画オート撮影（モードダイヤル📷）と同様に被写体の明るさに応じてシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。また、静止画オート撮影では、設定できない撮影機能をメニューで設定できます（99ページ）。

プログラムシフト

自動で設定されたシャッタースピードと絞り値の組み合わせを、露出を固定したまま変更することができます。

1 モードダイヤルを「P」にする

2 コマンドダイヤルでシャッタースピードと絞り値の組み合わせを選ぶ

プログラムシフト中は「P*」が表示されます。

3 撮影する

プログラムシフトを解除するには

コマンドダイヤルを回して表示の「P*」を「P 」に戻す。

- シャッターボタンを半押ししているときは、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選べません。
- 明るさが変わると絞り値とシャッタースピードはプログラムシフトの組み合わせを保持したまま変化します。
- 撮影状況によっては絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できないことがあります。
- フラッシュモードの設定を変更した場合は、プログラムシフトが解除されます。
- モードダイヤルを「P」以外にするか、電源を切ると設定は解除されます。

シャッタースピード優先で撮る

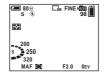
モードダイヤル：S

シャッタースピードを手動で調整できます。
シャッタースピードを速くすると動いているものが止まっているように写り、シャッタースピードを遅くすると動いているものが流れるように写ります。
被写体の明るさに応じた適正露出になるように、絞り値は自動調整されます。

速いシャッタースピード

遅いシャッタースピード

1 モードダイヤルを「S」にする

2 コマンドダイヤルでシャッタースピードを選ぶ

1/2000秒から30秒の範囲で選べます。
1/25秒またはそれよりも遅い設定のシャッタースピードを選択すると、シャッタースピードの前に「NR」と表示され、自動的にNRスローシャッターモード（14ページ）に入ります。

3 撮影する

- 1秒以上は「1"」のように「"」が表示されます。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは⚡（強制発光）または⊘（発光禁止）になります。
- シャッタースピードが速いときは、フラッシュを発光しても、明るさが充分でないことがあります。
- 露出補正値を調整することができます（18ページ）。

NRスローシャッター

撮影した画像からノイズを低減し、きれいな画像を得る機能です。1/25秒またはそれよりも遅い設定のシャッタースピードを選択すると、自動的にNRスローシャッター機能が働き、シャッタースピード表示の前に「NR」が表示されます。

シャッターボタンを深く押し込む。

↓

撮影中

このとき画面は黒くなります。

↓

処理中

「処理中」の表示が消えると、画像が記録されます。

- 手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- 設定されているシャッタースピードの時間だけノイズを低減する処理を行うため、シャッタースピードが遅く設定されているときは、処理に時間がかかります。

撮影のテクニック

走っている人や車、波しぶきなどを高速のシャッタースピードで撮ると、肉眼ではとらえることができない瞬間を撮影できます。

また、低速のシャッタースピードで川の流れなど動きのあるものを撮影すると、より自然な流動感のある画像になります。この場合手ぶれしないように三脚のご使用をおすすめします。

- 本機を手で持って撮影する場合は、（手ぶれ警告）表示が出ない範囲でシャッタースピードを設定してください。

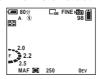
絞り優先で撮る

モードダイヤル：A

レンズに入る光量を手動で調整できます。
絞りを開く（絞り値を小さくする）と光量が増えます。ピントの合う範囲が狭くなり、被写体のみがくっきり写ります。絞りを閉じる（絞り値を大きくする）と光量が減ります。ピントの合う範囲が広がり、画面全体がシャープに写ります。
被写体の明るさに応じた適正露出になるように、シャッタースピードは自動調整されます。

絞りを開く　**絞りを閉じる**

1 モードダイヤルを「A」にする

2 コマンドダイヤルで絞り値を選ぶ

ズーム位置によって選べる範囲は変わります。W側のときは、F2からF8まで、T側のときは、F2.8からF8までになります。

3 撮影する

- シャッタースピードは1/2000秒から8秒の範囲で自動調整されます。絞り値をF8に設定した場合は1/3200秒からになります。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは⚡（強制発光）、⚡SL（スローシンクロ）または⊛（発光禁止）になります。
- 露出補正値を調整することができます（18ページ）。

マニュアル露出で撮る

撮影のテクニック

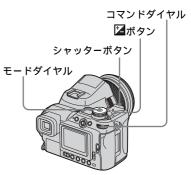
絞りの重要な効果であるピントの合う範囲のことを「被写界深度」といいます。被写界深度は絞りを開けると浅く（ピントの合う範囲は狭く）なり、絞りを閉じると深く（ピントの合う範囲が広く）なります。

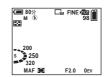
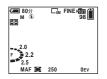
絞りを開く
背景をぼかして被写体をくっきり写す

絞りを閉じる
被写体と背景とにピントが合うように写す

画像全体をシャープにするのか、特定部分だけを強調するのか、撮影の意図によって絞りの効果を上手に使い分けてください。

モードダイヤル：M

シャッタースピードと絞り値を、手動で調整できます。
設定した値と本機が判断した適正露出の差が画面上にEV値（18ページ）で表示されます。0EVが本機が最適と判断した値です。
一度設定した値は電源を切っても保持されます。希望の露出を決めておけば、後でモードダイヤルを「M」にして同じ露出を再現することができます。

1 モードダイヤルを「M」にする

2 コマンドダイヤルでシャッタースピードを選ぶ

3 **（EV補正）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回し、絞り値を選ぶ**

4 **撮影する**

- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは（強制発光）または（発光禁止）になります。

測光モードを選ぶ

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN/

露出を決めるために被写体のどの部分で明るさを測るのかを、測光モードで選ぶことができます。

マルチパターン測光（）
画面を多分割し、それぞれを測光します。被写体の位置や背景の明るさをカメラが判断してバランスのよい露出を決めます。お買い上げ時はマルチパターン測光に設定されています。

中央部重点測光（）
画面の中央部に重点をおいて測光します。中央部付近の被写体の明るさを基準にして露出を決めます。

スポット測光（）
被写体の一部分だけを測光します。逆光にある被写体でも暗くならないように撮影することができます。また、被写体と背景とのコントラストが強いときでも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。

1 **モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする**

2 **（測光モード）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回し、希望の設定を選ぶ**

3 手順2で「スポット測光」を選んだときは、撮りたいポイントにスポット測光照準を合わせて撮る

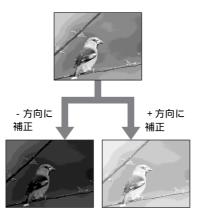
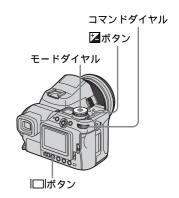
スポット測光照準

- 中央部重点測光とスポット測光の場合、測光する場所とフォーカスを合わせる場所を一致させたいときは、「AF測距枠」の「中央重点AF」を使うことをおすすめします（24ページ）。
- NIGHTSHOT、NIGHTFRAMING時は測光モードは選べません。

露出を補正する

ー EV補正

モードダイヤル：P/S/A/SCN/🎞

本機が決定した露出を手動で変えることができます。被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な露出が得られないときに使用します。
補正する数値は＋2.0EVから－2.0EVの範囲で、1/3EVきざみで設定することができます。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 (EV補正）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回し、補正値を選ぶ

露出補正値が表示されます。
被写体の背景の明るさを画面で確認しながら調節してください。

自動露出に戻すには

手順**2**で［0EV］を選んでください。

- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュを使って撮影したときは、設定した補正が効かないことがあります。

ヒストグラムを表示する

ヒストグラムとは、画像の明るさをグラフ化したものです。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。グラフの表示が右側に寄っているときは明るめの画像、左側に寄っているときは暗めの画像となります。画面が見づらいとき、撮影／再生時に露出を確認するときに使います。

1 **モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「SCN」のいずれかにする**

2 **(画面表示切り換え）ボタンを押してヒストグラムを表示する**

3 **ヒストグラムを参考に、露出を補正する**

- モードダイヤルを「」、「M」の位置にしてもヒストグラムは表示されます。ただし、EV補正はできません。
- 静止画のシングル画面での再生時（**別冊基本編** → 38ページ）、クイックレビュー時（**別冊基本編** → 27ページ）にも、(画面表示切り換え）ボタンでヒストグラムを表示することができます。
- 下記の場合、ヒストグラムは表示されません。
  - －メニューを表示しているとき
  - －ブラケットモードで撮影した画像のクイックレビュー時
  - －再生ズーム時
  - －動画時
- 下記の場合、⊗が表示されヒストグラムは表示されません。
  - －デジタルズーム領域での撮影時
  - －画像サイズが「3:2」のとき
  - －マルチ連写再生時
  - －静止画の回転時

- 撮影前のヒストグラムはそのときに画面に表示されている画像のヒストグラムを表しています。シャッターボタンを押す前と押した後では、ヒストグラムに差が生じます。その場合は、シングル画面での再生、またはクイックレビューで確認してください。
  特に下記の場合は大きく差が出ることがあります。
  －フラッシュ発光時
  －NIGHTFRAMING時
  －[P.エフェクト] が [ソラリ] に設定されているとき
  －シャッタースピードが遅いとき、または速いとき
- 他機で撮影した画像はヒストグラムが表示されないことがあります。

撮影のテクニック

撮影時、本機は自動で露出を設定しています。

逆光の人物や雪景色などのように全体が白っぽい被写体を撮影すると、本機が明るいと判断して、露出が暗めになることがあります。その場合は＋方向に補正すると効果的です。

＋方向に補正

また、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときは、本機が暗いと判断して、露出が明るめになることがあります。その場合は－方向に補正すると効果的です。

－方向に補正

露出オーバー/露出アンダーになり過ぎないように（白とびしたり真っ黒に潰れないように）、ヒストグラムを見ながら補正するとよいでしょう。

どの明るさが良いかは好みによるので、露出を変えていろいろな画像を試してみましょう。

露出を固定して撮る

ー AE LOCK

モードダイヤル：P/S/A/SCN/🎞

露出を先に決めてから撮りたい構図にして撮影できます。
被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光時の撮影などに有効です。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 露出を測光したい被写体に本機を向け、AE LOCKボタンを押す

露出が固定され、✱マークが出ます。

3 希望の構図にして、シャッターボタンを半押しする

フォーカスを調節します。

4 シャッターボタンを深く押し込む

AE LOCKを解除するには

以下のいずれかの操作を行ってください。

- 手順2の後でもう1度AE LOCKボタンを押す。
- 手順3の後でシャッターボタンから指を離す。
- 手順4でそのまま画像を撮る。

撮影のテクニック

本機は被写体に合わせて自動で露出を調節しているため、構図を変えた場合、背景などによって被写体の明るさが変わることがあります。AEロックを使用すると、撮りたい構図での明るさに左右されずに撮影できます。

露出を決めるために中央部重点測光やスポット測光で適正露出にしたい部分を測光する。

AE LOCKボタンを押し、露出を固定してから構図を変えて撮影する。

最適な露出を探す
ー ブラケット

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN

自動的に決定された露出とは別に、＋方向／－方向に補正した露出での画像も同時に記録します。
被写体の明るさによってうまく撮影できないときは、ブラケット撮影で露出を変えながら撮影すれば、撮影した後で最適な露出の画像を選ぶことができます。

1枚目（＋方向に補正）

2枚目（本機での適正露出）

3枚目（－方向に補正）

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 /BRK（ブラケット）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回し、「BRK」を選ぶ

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［BRK］（ブラケット設定）、▲/▼で露出補正量を選ぶ

±1.0EV：露出値を上下に1.0EVずらす。
±0.7EV：露出値を上下に0.7EVずらす。
±0.3EV：露出値を上下に0.3EVずらす。

5 撮影する

通常撮影に戻すには

手順**2**で「通常撮影」を選んでください。

感度を変える – ISO

- ［Mode］（撮影モード）で［通常撮影］以外を選んでいるときは、ブラケット撮影はできません。
- シーンセレクションのモードによっては、ブラケット撮影ができない場合があります（**別冊基本編** ➡ 36ページ）。
- フラッシュは使えません。
- 撮影中は画面に画像が出ません。シャッターボタンを押す前に構図を決めておいてください。
- フォーカスとホワイトバランスは、最初の1枚目に設定された値に固定されます。
- EV補正をしているときは（18ページ）、補正した明るさを基準に露出を変えて撮影します。
- 撮影の間隔は約0.42秒です。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりするときは、設定した露出補正量で撮影できない場合があります。
- ブラケット撮影をするときは、1/25秒またはそれよりも遅いシャッタースピードは選べません。

モードダイヤル：P/S/A/M

光に対する感度を変えることができます。感度を上げると暗い場所でも撮影できるようになります。
通常はオートに設定されています。オートのときは暗い場所では自動的に感度が上がります。

1 **モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀で［ISO］、▲/▼で希望の数値を選ぶ**
［800］、［400］、［200］、［100］、［64］、［オート］から選べます。

自動調節に戻すには

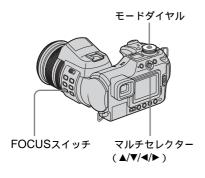
手順**3**で［オート］を選んでください。

- 手ぶれを抑えたい場合、感度を上げるとより速いシャッタースピードで撮影することができます。
- 感度を上げると、ノイズが目立つようになります。画質を優先したい場合は感度を低く設定してください。

オートフォーカスの方法を選ぶ

AF測距枠とAFモードを設定できます。

AF測距枠
被写体の位置やその大きさによってピント合わせの位置を選択します。

AFモード
ピント合わせを開始／終了するタイミングを設定します。

ピント合わせの測距枠を選ぶ ー AF測距

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN/🎞

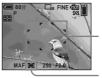
マルチポイントAF (▣)
中央を中心に上下左右の5か所で距離を測定するので、構図に依存しないオートフォーカス撮影ができます。被写体がフレームの中心になくピントが合わせづらい場合に有効です。AFロック後、ピント合わせを行った位置を緑の枠で確認することができます。
お買い上げ時はマルチポイントAFに設定されています。

中央重点AF (▣)
中央付近の被写体を狙ってピントを合わせるときに便利です。AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能です。

フレキシブルスポットAF (▣)
画面上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせることができるため、好きな構図で撮影が可能です。三脚を使用した撮影で被写体が中央部にない場合などに便利です。動いている被写体の場合では手振れの影響を受けやすいため、測距枠から被写体がはずれないようにご注意ください。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 FOCUSスイッチを「AUTO」にする

3 マルチセレクターの中央を繰り返し押して、希望のモードを選ぶ

ピント合わせの動作を選ぶ
ーAFモード

4 手順3で「フレキシブルスポットAF」を選んだときは、▲/▼/◀/▶でフォーカスを合わせたい位置に測距枠を移動する

シャッターボタンを半押ししてピントが合うとAF測距枠の色が白から緑色に変わります。

- 動画撮影時、マルチポイントAFを選ぶと画面中央部分を平均的に測距し、手振れに強いAFが可能です。AF測距枠表示は[ ]になります。中央重点AFとフレキシブルスポットAFの場合は、選択された枠部分のみで測距するため、狙った部分のピント合わせに便利です。
- デジタルズームやホログラフィックAFを使用するときは、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、AF測距枠表示が点滅し、AF測距枠は表示されません。

モードダイヤル：SET UP

シングルAF（S AF）
動きのない被写体を撮影するときに便利です。
シャッターボタンを半押しする前はピント合わせを行いません。シャッターボタンを半押しし、ロックが完了すると、フォーカスが固定されます。

モニタリングAF（M AF）
ピント合わせの時間を短くすることができます。シャッターボタンを半押しする前からピント合わせを自動的に行うので、ピントが合っている状態で構図を決めることができます。シャッターボタンを半押しし、ロックが完了すると、フォーカスが固定されます。
お買い上げ時はモニタリングAFに設定されています。

- シングルAFに比べてバッテリーの消耗が早くなることがあります。

コンティニュアスAF（C AF）
シャッターボタンを半押しする前からピント合わせを行い、ロック完了後もピント合わせを行います。被写体が動いた場合でもそのまま撮影が可能です。ただし、動きの速すぎる被写体の場合、追従できない場合があります。AF測距枠は中央重点AFになります。

- 下記の場合は、ロック完了後、ピント合わせを行いません。「C AF」が点滅し、モニタリングAFと同じ動作になります。
  ー暗い状況下での撮影
  ースローシャッターでの撮影
  ーNIGHTSHOT／NIGHTFRAMINGでの撮影
- ピントが合ったときのロック音は鳴りません。
- セルフタイマー撮影のときはシャッターボタンを深く押し込むとピントが固定されます。
- 他のAFモードに比べてバッテリーの消耗が早くなることがあります。

手動でピントを合わせる

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲で［📷1］（カメラ1）、▶/▲で［AFモード］を選ぶ

3 ▶/▲/▼で希望のモードを選び、マルチセレクターの中央を押す

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN/🎞

通常は自動的にピントの調節が行われていますが、下記のような被写体を撮影するときは、ピントが合いにくくなることがあります。
このような場合は、手動でピントを合わせてください。

ピントが合いにくい被写体

- 青空、単色の平面など、コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体
- 非常に暗い場所にある被写体
- 反射光の強い金属、または逆光状態で、かつ光の反射が強い被写体
- 網や窓ガラス越しの被写体

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 FOCUSスイッチを「MANUAL」にする

手動ピント合わせ表示Ⓕが表示されます。

3 マニュアルフォーカスリングを回し、ピントを合わせる

フォーカス距離情報が表示されます。下記の近接（マクロ）撮影領域で調節できます。
T側：約60 cm〜∞（無限遠）
W側：約2 cm〜∞（無限遠）

「SET UP」で［拡大フォーカス表示］を［入］にしていると、静止画撮影時は画面の画像が2倍に拡大され、ピントを合わせやすくなります。お買い上げ時は［入］に設定されています。
調節が終わると元に戻り、Fが黄色から白色に変わります。
Fが点滅したときは、ピント調節の限界を表します。

自動調節に戻すには

FOCUSスイッチを「AUTO」にしてください。

- フォーカス距離情報は正確な距離ではありません。目安として使用してください。
- NIGHTSHOT時、フォーカス距離情報は表示されません。
- マニュアルフォーカス中は以下のモードでの撮影ができません。
  – 近接（マクロ）撮影
  – NIGHTFRAMINGでの撮影
- 動画を撮影するときは、拡大フォーカス表示は使用できません。

フラッシュモードを選ぶ

モードダイヤル：📷/P/S/A/M/SCN

通常は自動で発光しますが、フラッシュモードを意図的に変えて撮影することができます。

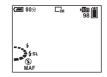
オート（表示なし）
撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的に発光します。
お買い上げ時はオートに設定されています。

強制発光（⚡）
周囲の明るさに関係なく発光します。

スローシンクロ（⚡SL）
周囲の明るさに関係なく発光します。
暗い場所で撮影するときはシャッタースピードが遅くなり、フラッシュが届かない背景も明るく写すことができます。

発光禁止（⊘）
常に発光しません。

1 **モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする**

2 **⚡（フラッシュ）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回し、希望のモードを選ぶ**

- 連続してフラッシュ撮影をした直後は、フラッシュ発光部の表面が熱くなることがありますのでご注意ください。
- フラッシュ推奨撮影距離はW側で約0.5 m～4.5 m、T側で約0.6 m～3.3 mです（［ISO］が［オート］のとき）。
- レンズフード（付属）を付けているとフラッシュの発光がさまたげられます。
- ⚡SL（スローシンクロ）または⊛（発光禁止）のとき、暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。
- フラッシュを充電している間は、⚡ランプが点滅します。充電が完了すると消灯します。
- フラッシュの発光量はメニューの［フラッシュレベル］で変えることができます（30ページ）。(モードダイヤルが「📷」のときは操作できません。）
- 本機には外部フラッシュを取り付けることができます（30ページ）。

フラッシュ発光部を手動で持ち上げるには（ポップアップフラッシュモード）

通常は撮影状況に合わせて自動的に発光しますが、「SET UP」の［ポップアップフラッシュ］を［マニュアル］にしておくと（104ページ）、自分で希望したときだけフラッシュ発光部を持ち上げることができます。

フラッシュを発光するときは

1. OPEN（FLASH）スイッチを矢印の方向にずらす
   フラッシュ発光部が持ち上がります
2. フラッシュモードを⚡（強制発光）または⚡SL（スローシンクロ）にする
3. 撮影する

ポップアップフラッシュをオートモードに戻すときは、「SET UP」で［オート］を選んでください。

目が赤く写らないようにするには

撮影前にフラッシュが予備発光し、目が赤く写るのを軽減します。

「SET UP」の［赤目軽減］を［入］にしてください（103ページ）。画面に👁が表示されます。

- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や被写体が予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくいことがあります。

撮影のテクニック

フラッシュを活用すると表現の幅が広がります。

(強制発光)に設定すると、逆光時に被写体が暗くならずに撮影できます。また、人物の瞳にフラッシュの光が写りこみ輝いて見える効果もあります。

フラッシュモードを「オート」に設定していると、撮影者の意図に関わりなくフラッシュが発光されてしまうことがあります。この明るさのとき、意図的に(発光禁止)にすると、シャッタースピードが遅くなり、自動的にスローシャッターに設定されます。自動車の軌跡や光の残像を撮る場合や、夕景シーンを撮る場合などに効果的です。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

SL(スローシンクロ)は、夕暮れ時に人物を撮影するときなどに効果的です。人物はフラッシュで明るくなり、背景は長時間露光できれいに撮影できます。スローシャッターでも対応できない場合には、ISO感度が自動的に上がります。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

フラッシュレベルを選ぶ

ー フラッシュレベル

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN

フラッシュの発光量を調節することができます。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［⚡±］（フラッシュレベル）、▲/▼で希望のレベルを選ぶ

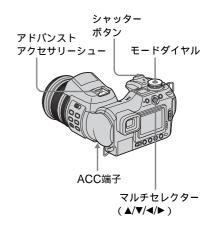
明：フラッシュの発光量を通常より多くする。

標準：通常の設定

暗：フラッシュの発光量を通常より少なくする。

外部フラッシュを使う

モードダイヤル：📷/P/S/A/M/SCN

別売りの外部フラッシュを取り付けることができます。外部フラッシュを使うと光量が増えるため、より鮮明なフラッシュ撮影をすることができます。詳しくはお使いになるフラッシュに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 外部フラッシュを取り付けていると、重みでレンズ部が安定しません。左手でレンズ部をささえて撮るか、三脚のご使用をおすすめします。
- 外部フラッシュと本機の内蔵フラッシュは同時に発光しません。
- 2つ以上の外部フラッシュを使用して撮影すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- 外部フラッシュでの撮影時にホワイトバランスが合わない場合は、フラッシュを⚡(強制発光)、または⚡SL(スローシンクロ)にして、SET(ワンプッシュセット)で取り込んでから撮影してください(32ページ)。

ソニー製専用フラッシュを使う

本機のアドバンストアクセサリーシューには、ソニー製の専用フラッシュHVL-F32XまたはHVL-F1000を取り付けて使用することができます。HVL-F32Xは自動発光量調節、AF補助光による撮影機能も搭載しています。

1 アドバンストアクセサリーシューにお使いになるフラッシュを取り付ける

2 ACC端子にフラッシュのプラグを差し込む

HVL-F32Xをお使いになる場合は手順2は不要です。

3 フラッシュの電源を入れる

4 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

5 撮影する

- 「SET UP」の[ホットシュー]が[切]になっていることを確認してください(104ページ)。
- [ISO]が[800]のときは、HVL-F32XのAUTO「B」モードは使用できません。

市販のフラッシュを使う

本機のアドバンストアクセサリーシューには、市販の外部フラッシュを取り付けることもできます。

1 アドバンストアクセサリーシューに外部フラッシュを取り付ける

2 モードダイヤルを「SET UP」にする

3 ▲/▼で[📷2](カメラ2)、▶/▲/▼で[ホットシュー]、▶/▲で[入]を選び、マルチセレクターの中央を押す

4 市販の外部フラッシュの電源を入れる

5 モードダイヤルを「M」または「A」にする

モードダイヤルが「📷」、「P」、「S」、「SCN」でもフラッシュは発光しますが、「M」または「A」での撮影をおすすめします。

6 撮影する

- 「SET UP」の［ホットシュー］を［切］のまま撮影すると、内蔵フラッシュが持ち上がることがあります。そのときは、内蔵フラッシュを元に戻して、「SET UP」の［ホットシュー］を「入」にしてください（104ページ）。
- ［ホットシュー］が［入］のときは、が表示されます。このとき内蔵フラッシュは発光しません。
- 絞り値は、ご使用のフラッシュのガイドナンバーと被写体との距離から最も適した値を設定してください。
- フラッシュのガイドナンバーは、カメラのISO感度（23ページ）で変わります。ISO感度をご確認ください。
- 他社の特定のカメラ専用とされているフラッシュ（一般にアドバンストアクセサリーシューに複数の接点を持つフラッシュ）、高圧タイプのフラッシュ、およびフラッシュ用の付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- 市販の外部フラッシュによっては、一部の機能が使用できなかったり、操作しにくいことがあります。

色合いを調節する

ー ホワイトバランス

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN/

通常は自動的に色合いの調節が行われますが、撮影条件に応じたモードを設定することができます。
被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。光源の撮影条件を固定したいときや画面全体が不自然な色合いのときは、ホワイトバランスの設定をおすすめします。

オート（表示なし）
ホワイトバランスが自動的に設定されます。お買い上げ時はオートに設定されています。
（色温度：約3000～7000K（ケルビン））

（太陽光）
戸外で撮るときや夜景やネオン、花火や日の出、日没前後などを撮る場合
（色温度：約5500K（ケルビン））

（曇天）
くもり空のときに撮影する場合
（色温度：約6500K（ケルビン））

（蛍光灯）
蛍光灯の下で撮影する場合
（色温度：約4000K（ケルビン））

（電球）
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下

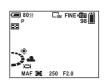
（色温度：約3200K（ケルビン））

WB（フラッシュ）
ホワイトバランスをフラッシュの光のみに合わせる場合
動画では使えません。
（色温度：約6000K（ケルビン））

（ワンプッシュ）
光源に合わせてホワイトバランスを一定の設定にする場合
（色温度：約2000～10000K（ケルビン））

SET（ワンプッシュセット）
（ワンプッシュ）での基準になる「白」を取り込む場合

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 WBボタンを押しながらコマンドダイヤルを回し、希望の設定を選ぶ

自動調節に戻すには

手順2で「オート」を選んでください。

- ちらつきのある蛍光灯の下では、「」を選択してもホワイトバランスが合わないことがあります。
- フラッシュ発光時にはホワイトバランスのマニュアルの設定が解除され、オートモードで撮影されます。（「WB」または「」のときを除く。）

SET（ワンプッシュセット）で基準の「白」を取り込む

（ワンプッシュ）で撮影するときに、その撮影状況で基本になる「白」を本機に教えます。オートや他の設定で実際の色が上手く表現できないときなどに使用します。

1 手順2でSET（ワンプッシュセット）を選ぶ。
SETが表示されます。

2 被写体を照らす照明条件と同じ所に白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。

3 マルチセレクターの中央を押す。
画面が一瞬黒くなり、SET表示が速い点滅に変わります。
ホワイトバランスが調節されてカメラに記憶されると、表示が点灯します。

- 表示が遅い点滅をしたときは、ホワイトバランスが未設定または設定できなかった場合を表しています。設定できなかった場合は「オート」で撮影してください。
- SET表示が速い点滅をしている間は、本機を動かさないでください。
- フラッシュモードが（強制発光）またはSL（スローシンクロ）の場合、フラッシュが発光した状態でホワイトバランスが調節されます。

画像の色合いを選ぶ
ー 色再現

モードダイヤル：P/S/A/M

色の再現方法を選びます。

スタンダード（表示なし）
見た目にきれいな色合いで再現されます。実際の色よりも明るめでコントラストが高く鮮やかな画像が再現されます。
お買い上げ時はスタンダードに設定されています。

リアル（REAL）
実際の色に忠実な質感、色合いで再現されます。コントラスト、明るさ、彩度を抑えた画像になります。撮影後に画像処理をする場合などに適しています。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［COLOR］（色再現）、▲/▼で希望の設定を選ぶ

連写する

モードダイヤル：📷/P/S/A/M/SCN

連続撮影するときに使います。シャッターボタンを押しつづけると、最大7枚まで連続して撮影できます。

スピード優先連写（S）
連写間隔が短くなりますが（約0.38秒）、連写中は画像が表示されません。

フレーミング優先連写（F）
連写中も画像が表示されますが、連写間隔が長くなります（約0.42秒）。

- 記録メディアの容量がいっぱいになると、シャッターボタンを押し続けても撮影は停止します。

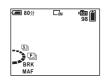
モードダイヤル

シャッターボタン

/BRKボタン

コマンドダイヤル

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 /BRK（連写）ボタンを押したままコマンドダイヤルを回し、「S」（スピード優先連写）または「F」（フレーミング優先連写）を選ぶ

3 撮影する

シャッターボタンを押し続けると、最大7枚まで連写できます。「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

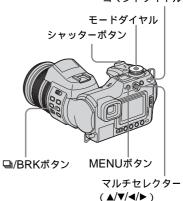
手順2で「通常撮影」を選んでください。

- フラッシュは使えません。
- ［Mode］（撮影モード）で［通常撮影］以外を選んでいるときは、連写できません。
- シーンセレクションのモードによっては、連写できない場合があります（**別冊基本編** ➡ 36ページ）。
- セルフタイマー撮影ではシャッターボタンを1回押すと最大7枚の連続撮影になります。
- 1/25秒またはそれよりも遅いシャッタースピードは選べません。

マルチ連写で画像を撮る

ー マルチ連写

モードダイヤル：📷/P/S/A/M/SCN

一度のシャッターで16コマの画像を連写します。スポーツのフォームをチェックするときなどに適しています。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 **/BRK（連写）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回し、「M」（マルチ連写）を選ぶ**

3 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

4 **◀/▶で［M］（インターバル）、▲/▼で希望のコマ間のインターバルを選ぶ**

［1/7.5］、［1/15］、［1/30］から選ぶことができます。

5 **撮影する**

1枚の静止画の中に連続した16コマの画像を記録します（画像サイズ1M）。

- ［Mode］（撮影モード）で［通常撮影］以外を選んでいるときは、マルチ連写できません。
- マルチ連写中は以下の操作ができません。
  - スマートズーム
  - フラッシュ撮影
  - 日付・時刻の挿入
  - NIGHTFRAMING
- モードダイヤルが「」のとき、インターバルは［1/30］になります。
- シャッタースピードは、設定したインターバルよりも遅くすることはできません。
- マルチ連写の撮影枚数は97、98ページをご覧ください。
- マルチ連写で撮った画像を本機で再生するときは、46ページをご覧ください。

モードダイヤル：/P/

- 赤外線ライトの到達距離はW側で約0.5 m～2.1 m、T側約0.6 m～2.1 mです。
- 赤外線発光部がフラッシュ発光部の下にあるため、フラッシュ部が持ち上がった状態での撮影になります。

NIGHTSHOT（ナイトショット）

夜間に動植物を観察するときやキャンプなど、暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときに使います。
ただし、NIGHTSHOTで撮影した画像は緑がかって記録されます。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「🎞」のいずれかにする

2 NIGHTSHOT/NIGHTFRAMINGボタンを押しながらコマンドダイヤル回し、「◉」（ナイトショット）を選ぶ
フラッシュ発光部が持ち上がり、◉と“ ナイトショット ”という表示が約5秒間点灯します。

3 撮影する

解除するには

手順2で「切」を選んでください。

- NIGHTSHOT中は、
  – ホワイトバランスはオートになります。
  – 測光モードは中央部重点になります。
  – 無効な操作をすると◉が点滅し、“ ナイトショット ”表示が約5秒間点灯します。
- NIGHTSHOT中は以下の操作ができません。
  – AE LOCK
  – ホログラフィックAF撮影
  – フラッシュ撮影
  – 色再現選択
  – 彩度、コントラスト、シャープネス調節
- 「SET UP」で［ポップアップフラッシュ］が［マニュアル］になっているときは、OPEN（FLASH）スイッチでフラッシュ発光部を持ち上げてください。
- レンズフード（付属）を取り付けていると、赤外線がさまたげられることがあります。
- 昼間の屋外の明るいところでは使用しないでください。故障の原因になります。

NIGHTFRAMING（ナイトフレーミング）

夜間でも被写体を確認でき、フラッシュの発光による自然な色合いで撮影ができます。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」のいずれかにする

2 NIGHTSHOT/NIGHTFRAMINGボタンを押しながらコマンドダイヤルを回し、「◉NF」（ナイトフレーミング）を選ぶ
フラッシュ発光部が持ち上がり、◉NFと“ ナイトフレーミング ”という表示が約5秒間点灯します。

3 シャッターボタンを半押しする
フォーカスが自動的に調節されます。

4 シャッターボタンを深く押し込む

「カシャッ」と音がしてフラッシュが光り、撮影されます。

解除するには

手順2で「切」を選んでください。

- NIGHTFRAMING中は、
  - ホワイトバランスはオートになります。
  - 測光モードはマルチパターン測光になります。
  - AF測距枠は表示されません。中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
  - AE LOCKはできません。
  - 無効な操作をすると、NFが点滅し、“ナイトフレーミング”表示が約5秒間点灯します。
- 「SET UP」で［ポップアップフラッシュ］が［マニュアル］になっているときは、OPEN（FLASH）スイッチでフラッシュ発光部を持ち上げてください。
- レンズフード（付属）を取り付けていると、フラッシュの光と赤外線がさまたげられることがあります。
- シャッターボタンを半押しにした状態でカシャッと音がしますが、シャッターを切る音ではありません。このときはまだ撮影されていません。
- 「SET UP」で［ホログラフィックAF］が［切］のときはフォーカスが合わないことがあります。［オート］にすることをおすすめします（**別冊基本編** → 34ページ）。
- 以下の操作中はNIGHTFRAMINGはできません。
  - マニュアルフォーカス
  - ブラケット
  - 連写
  - マルチ連写

画像に特殊効果を加えて撮る ーピクチャーエフェクト

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN/

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

ソラリ

明暗をはっきりさせたイラストのように

セピア

古い写真のような色合いに

ネガアート

写真のネガフィルムのように

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［PFX］（P.エフェクト）、▲/▼で希望のモードを選ぶ

4 撮影する

ピクチャーエフェクトを解除するには

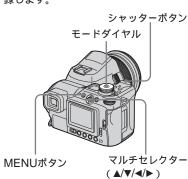
手順**3**で［切］を選んでください。

- ピクチャーエフェクト中は、色再現の選択はできません。

RAWデータで撮る

ー RAWモード

モードダイヤル：📷/P/S/A/M/SCN

撮影した生データをそのままの状態で記録するモードです。専用ソフトウェアを使うと、パソコンにデータを取り込んだあとに、画質劣化が非常に少ない画像処理でデータを復元し、表示することができます。通常記録される圧縮されたJPEG形式の画像も同時に記録します。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲で［RAW］を選ぶ

4 撮影する

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

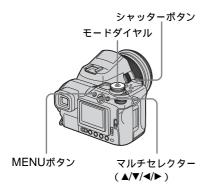
通常撮影に戻すには

手順**3**で［通常撮影］を選んでください。

- RAWデータをパソコンで復元するには専用のソフトウェアが必要です。付属のCD-ROM（Image Data Converter）からインストールしてください。RAWデータは特殊なファイルなので一般のアプリケーションでは画像を表示することができません。
- JPEG画像は、**別冊基本編** ➡ 22ページで選ばれている画像サイズで記録されます（ただし［3:2］は選べません）。RAWデータファイル画像は［8M］で記録されます。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。
- デジタルズームは使えません。
- RAWモードの撮影枚数は96、98ページをご覧ください。

画像を圧縮せずに撮る
ー TIFFモード

モードダイヤル：📷/P/S/A/M/SCN

撮影した画像データを圧縮しないファイル形式で記録するモードです。画質の劣化がほとんどありません。写真画質でのプリント時などに適しています。通常記録される圧縮されたJPEG形式の画像も同時に記録します。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲/▼で［TIFF］を選ぶ

4 撮影する

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

- JPEG画像は、**別冊基本編** ➡ 22ページで選ばれている画像サイズで記録されます。非圧縮（TIFF）画像は［3:2］を選んでいるとき以外は［8M］で記録されます。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。
- TIFFモードの撮影枚数は96、98ページをご覧ください。

Eメール添付用の画像を撮る ーEメール

モードダイヤル：📷/P/S/A/M/SCN

Eメール添付に適した、小さいサイズ（320×240）の画像を撮影します。
別冊基本編 ➡ 22ページで選択したサイズの静止画も同時に記録されます。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

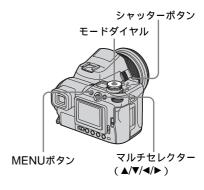
3 **◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲/▼で［Eメール］を選ぶ**

4 **撮影する**

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

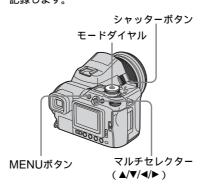
通常撮影に戻すには

手順**3**で［通常撮影］を選んでください。

- 撮影した画像をEメールソフトウェアに添付する方法については、お使いのソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- Eメールモードの撮影枚数は97、98ページをご覧ください。

画像に音声を記録する

ー ボイスメモ

モードダイヤル：📷/P/S/A/M/SCN

静止画の撮影時に、音声もいっしょに記録します。

1 **モードダイヤルを「📷」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲/▼で［ボイスメモ］を選ぶ**

4 **撮影する**

シャッターボタンをポンと1回押すと
5秒間音声が記録されます。

シャッターボタンを押し続けると
押し続けている間、音声が記録されます（最長40秒間）。

通常撮影に戻すには

手順**3**で［通常撮影］を選んでください。

- ボイスメモで撮影した画像を見るには、「画面で動画を見る」（60ページ）と同じ操作を行ってください。
- 撮影するときは、マイク（**別冊基本編** ➡ 10ページ）に指が触れないようにご注意ください。
- ボイスメモの撮影枚数は96、98ページをご覧ください。

フォルダを選択して再生する ーフォルダ

モードダイヤル：▶

再生したい画像の入っているフォルダを選択します。

マルチセレクター（▲/▼/◀/▶）

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀で［🗀］（フォルダ）を選び、マルチセレクターの中央を押す

4 ◀/▶で再生したいフォルダを表示させる

5 ▲で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

再生フォルダの選択を中止するには

手順5で［キャンセル］を選んでください。

記録メディアに複数のフォルダがあるときは

フォルダ内の最初/最後の画像が表示されると、画面に下記のマークが表示されます。

↵: 前のフォルダに移動できます。
↳: 次のフォルダに移動できます。
↵↳: 前のフォルダにも、次のフォルダにも移動できます。

シングル画面のとき

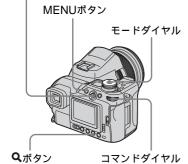
インデックス画面のとき

- 再生フォルダ内に画像がないときは、「このフォルダにはファイルがありません」と表示されます。
- 再生フォルダを選択しなくても最後に撮影した画像から再生できます。

静止画の一部を拡大する

画像を拡大する − 再生ズーム

モードダイヤル：▶

撮影した画像を元の画像の5倍まで拡大することができます。また、拡大した画像を新しいファイルとして記録することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で拡大したい画像を表示する

3 （再生ズーム）ボタンを押す

画像が2倍に拡大されます。

4 ▲/▼/◀/▶で拡大したい部分を選ぶ

▲に動かす

◀に動かす

▶に動かす

▼に動かす

▲：画像の上側を見るとき
▼：画像の下側を見るとき
◀：画像の左側を見るとき
▶：画像の右側を見るとき

5 コマンドダイヤルで画像の大きさを調節する

拡大表示をやめるには

もう1度（再生ズーム）ボタンを押してください。

- 動画／マルチ連写で撮影した画像は再生ズームできません。
- クイックレビュー（**別冊基本編** ➡ 27ページ）で表示した画像も手順3から5の操作で拡大することができます。

拡大した画像を記録する
ー トリミング

1 再生ズーム後にMENUボタンを押す

メニューが表示されます。

2 ▶で［トリミング］を選び、マルチセレクターの中央を押す

3 ▲/▼で画像サイズを選び、マルチセレクターの中央を押す

画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録フォルダに記録されます。元の画像はそのまま残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。
- RAWデータファイル／非圧縮（TIFF）画像はトリミングできません。
- クイックレビューで表示した画像はトリミングできません。

連続して再生する
ー スライドショー

モードダイヤル：▶

撮影した画像を順番に再生します。画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［スライドショー］（スライドショー）を選び、マルチセレクターの中央を押す

▲/▼/◀/▶で下記の設定を選びます。

間隔設定

3秒／5秒／10秒／30秒／1分

再生画像

フォルダ内：選択しているフォルダ内の画像がすべて再生される。

全て：記録メディア内の画像がすべて再生される。

繰り返し

入： 繰り返し再生される。

切： すべての画像が再生されると、スライドショーは終わる。

4 ▼/▶で［スタート］を選び、マルチセレクターの中央を押す

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには

手順3で［キャンセル］を選んでください。

スライドショーの再生を中止するには

マルチセレクターの中央を押して、▶で［終了］を選び、マルチセレクターの中央を押してください。

スライドショー再生中に画像を送る／戻すには

▶（送り）または◀（戻し）に動かしてください。

- ［間隔設定］の設定時間は目安です。再生画像のサイズなどにより、変わることがあります。

静止画を回転する

ー回転

モードダイヤル：▶

カメラを縦にして撮影した画像を、回転して表示することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［ ］（回転）を選び、マルチセレクターの中央を押す

4 ▲で［ ］を選び、◀/▶で画像を回転させる

5 ▲/▼で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

回転を中止するには

手順4または5で［キャンセル］を選んでください。

- プロテクトされている画像／動画／マルチ連写で撮影した画像／RAWデータファイル／非圧縮（TIFF）画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は、本機で回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

マルチ連写の画像を再生する

モードダイヤル：▶

マルチ連写で撮影した画像を順番に再生したり、1コマずつ再生したりすることができます。画像のチェックなどに便利です。

マルチセレクター（▲/▼/◀/▶）

モードダイヤル

🗑ボタン

- パソコンで再生すると撮影された16コマが1枚の画像として同時に表示されます。マルチ連写機能のないカメラで再生した場合も同様です。
- マルチ連写で撮影した画像は分割できません。

連続して再生する

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でマルチ連写の画像を選ぶ

マルチ連写画像が順番に再生されます。

一時停止するには

マルチセレクターの中央を押してください。解除するときは、もう1度マルチセレクターの中央を押してください。表示されていたコマから連続再生が始まります。

1コマずつ再生する

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でマルチ連写の画像を選ぶ

マルチ連写画像が順番に再生されます。

3 コマ再生したい場所でマルチセレクターの中央を押す

コマ再生表示が表示されます。

4 ◀/▶で画像を送る

▶: 次のコマが表示されます。
▶に動かしたままにしておくとコマが順送りされます。

◀: 前のコマが表示されます。
◀に動かしたままにしておくとコマが逆送りされます。

連続再生に戻るには

手順4でマルチセレクターの中央を押してください。表示されていたコマから連続再生が始まります。

撮影した画像を削除するには

マルチ連写で撮影した画像は希望のコマのみを削除することができません。削除を実行すると、16コマすべてが削除されます。

1 削除したいマルチ連写の画像を表示する。

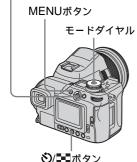
2 🗑（削除）ボタンを押す。

3 ［削除］を選び、マルチセレクターの中央を押す。
すべてのコマが削除されます。

画像を保護する

ー プロテクト

モードダイヤル：▶

大切な画像を誤って消さないように保護します。

- フォーマットするとプロテクトした画像も削除され元に戻せないのでご注意ください。
- プロテクトには時間がかかる場合があります。

シングル画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にする**

2 **◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する**

3 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

4 **◀/▶で［O┳］（プロテクト）を選び、マルチセレクターの中央を押す**
表示されている画像にプロテクトがかかり、O┳（プロテクト）マークが付きます。

5 **他の画像にもプロテクトをかけたいときは、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示し、マルチセレクターの中央を押す**

プロテクト指定を解除するには

手順4または5でもう1度マルチセレクターの中央を押してください。O┳マークが消えます。

インデックス画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、/（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［O┳］（プロテクト）を選び、マルチセレクターの中央を押す**

4 **◀/▶で［選択］を選び、マルチセレクターの中央を押す**

5 **プロテクトをかけたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、マルチセレクターの中央を押す**
選んだ画像に緑色のO┳マークが付きます。

6 **他の画像にもプロテクトをかけたいときは、手順5を繰り返す**

7 **MENUボタンを押す**

8 ▶で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

⊶マークが白色に変わり、選択した画像にプロテクトがかかります。

プロテクトを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順8で［終了］を選んでください。

プロテクト指定を解除するには

手順5でプロテクトを解除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、マルチセレクターの中央を押します。⊶マークがグレーに変わります。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。次にMENUボタンを押し、［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押してください。

フォルダ内のすべての画像にプロテクトをかけるには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、マルチセレクターの中央を押します。次に［入］を選び、マルチセレクターの中央を押してください。

フォルダ内のすべての画像のプロテクト指定を解除するには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、マルチセレクターの中央を押します。次に［切］を選び、マルチセレクターの中央を押してください。

画像のサイズを変える

ー リサイズ

モードダイヤル：▶

撮影した画像のサイズを変えて、新しいファイルとして記録できます。
8M、5M、3M、1M、VGAのサイズに変えられます。
リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でサイズを変えたい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［ ］（リサイズ）を選び、マルチセレクターの中央を押す

5 ▲/▼で変更したいサイズを選び、マルチセレクターの中央を押す

リサイズした画像は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

リサイズを中止するには

手順5で［キャンセル］を選んでください。

- 動画／マルチ連写で撮影した画像／RAWデータファイル／非圧縮（TIFF）画像はリサイズできません。
- 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、画像の上下に黒い帯が入ります。

プリントしたい画像を選ぶ ープリント予約マーク

モードダイヤル：▶

プリントしたい画像をあらかじめ本機で予約することができます。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店やプリンター、PictBridge規格対応のプリンターで画像をプリントするときなどに便利な機能です。

- 動画／RAWモードで撮影した画像にはプリント予約マークは付けられません。
- Eメールモードのときは、同時に記録された通常サイズの画像にプリント予約マークが付きます。
- マルチ連写で撮影した画像は16分割された1枚の画像としてプリント予約マークが付きます。
- TIFFモードで撮影した画像にプリント予約マークを付けると、非圧縮（TIFF）画像のみプリントされ、同時に記録されたJPEG画像はプリントされません。
- プリント枚数の設定はできません。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でプリント予約したい画像を表示する

3 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［DPOF］（DPOF）を選び、マルチセレクターの中央を押す

表示されている画像に（プリント予約）マークが付きます。

5 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、◀/▶でプリント予約したい画像を表示し、マルチセレクターの中央を押す

プリント予約マークを消すには

手順4または5でもう1度マルチセレクターの中央を押してください。マークが消えます。

インデックス画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする

2 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［DPOF］（DPOF）を選び、マルチセレクターの中央を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、マルチセレクターの中央を押す

- ［フォルダ内全て］で、マークを付けることはできません。

5 プリント予約したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、マルチセレクターの中央を押す

選んだ画像に緑色のマークが付きます。

6 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、手順5を繰り返す

7 MENU**ボタンを押す**

8 ▶で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

マークが白色に変わり、設定が完了します。

プリント予約マークを消すには

手順5でマークを消したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、マルチセレクターの中央を押してください。

フォルダ内のすべての画像のプリント予約マークを消すには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、マルチセレクターの中央を押します。次に［切］を選び、マルチセレクターの中央を押してください。

プリント予約マークを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または、手順8で［終了］を選んでください。

PictBridge規格対応のプリンターと接続する

パソコンをお持ちでない方でもPictBridge規格対応のプリンターを使えば、本機で撮影した画像を簡単にプリントすることができます。「SET UP」でUSB接続の設定をして、USBケーブルで本機とプリンターをつなぐだけです。
PictBridge規格対応のプリンターでは、インデックスプリント*もできます。

PictBridge

* インデックスプリントはプリンターによっては対応していない場合があります。

- プリントの途中で電源が切れないようにするため、ACアダプターのご使用をおすすめします。

本機の準備をする

本機とプリンターを接続するためにUSB接続の方法を設定します。

マルチセレクター（▲/▼/◀/▶）

モードダイヤル

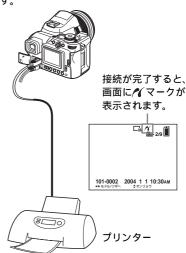
1 **モードダイヤルを「SET UP」にする**

2 **▼で［ ］（設定2）を選び、▶/▲/▼で［USB接続］を選ぶ**

3 **▶/▲で［PictBridge］を選び、マルチセレクターの中央を押す**

USB接続が設定されました。

本機とプリンターを接続する

付属のUSBケーブルで本機の⫯(USB)端子とプリンターのUSB端子を接続してください。本機の電源が入っているときでも、入っていないときでもプリンターと接続できます。
本機の電源が入っていると、モードダイヤルの位置に関係なく、再生モードになり、選択されている記録フォルダの一番新しい画像が画面に表示されます。

「SET UP」の［USB接続］を［PictBridge］に設定していないときは

本機の電源を入れてもPictBridgeの機能はご使用になれません。
［PictBridge］に設定し直してください。

1 MENUボタンを押して、［USB接続］を選び、マルチセレクターの中央を押す。

2 ▲で［PictBridge］を選び、マルチセレクターの中央を押す。

画像をプリントする

画像を選んでプリントします。52ページの手順を行い、本機を設定してからプリンターとつないでください。

- 動画／RAWモードで撮影した画像はプリントできません。
- Eメール／非圧縮（TIFF）画像は、同時に記録されたJPEG画像のみプリントされます。
- プリンターと接続中、プリンターからエラー発生の通知がくると、が約5秒間点滅します。その場合は、接続しているプリンターを確認してください。
- プリント中に、/CFスイッチを切り換えるとプリントが中断される場合があります。ご注意ください。

シングル画面のとき

1 **/CFスイッチで記録メディアを選び、◀/▶でプリントしたい画像を表示する**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［］（プリント）を選び、マルチセレクターの中央を押す**

4 **▲/▼で［この画像］を選び、マルチセレクターの中央を押す**
プリント設定画面が表示されます。

- インデックスプリントや日付挿入に対応していないプリンターをお使いの場合、設定できない項目は表示されません。

5 **▲/▼で［枚数］、◀/▶でプリントする枚数を選ぶ**
20枚まで選ぶことができます。

6 ▼/▶で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

画像が印刷されます。

（USBケーブル抜き禁止）マークが画面に表示されているときは、USBケーブルを抜かないでください。

プリントを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順6で［終了］を選んでください。

他の画像もプリントするには

手順6のあとでプリントしたい画像を選び、▲で［プリント］を選んでください。

プリント予約マークの付いた画像をすべてプリントするには

手順4で［DPOF画像］を選んでください。表示されている画像と関係なく、（プリント予約）マークが付いているすべての画像が、指定枚数ずつプリントされます。

画像に日付を挿入するには

手順5で［日付］を選び、◀/▶で日付の種類を選んでください。［日時分］、［年月日］から選ぶことができます。［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（**別冊基本編** → 17ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。

お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

1 /CFスイッチで記録メディアを選び、/（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ▶で［］（プリント）を選び、マルチセレクターの中央を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、マルチセレクターの中央を押す

5 プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、マルチセレクターの中央を押す

選んだ画像に✔マークが付きます。

6 他の画像もプリントしたいときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

プリント設定画面が表示されます。

- インデックスプリントや日付挿入に対応していないプリンターをお使いの場合、設定できない項目は表示されません。

8 ▲/▼で［枚数］、◀/▶でプリントする画像の数を選ぶ

20枚まで選ぶことができます。

選択したすべての画像を、指定枚数ずつプリントします。

9 ▼/▶で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

画像が印刷されます。

マークが画面に表示されているときは、USBケーブルを抜かないでください。

プリントを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順9で［終了］を選んでください。

プリント予約マークの付いた画像をすべてプリントするには

手順4で［DPOF画像］を選んでください。表示されている画像と関係なく、マークが付いているすべての画像が、指定枚数ずつプリントされます。

フォルダ内のすべての画像をプリントするには

手順4で［フォルダ内全て］を選んでください。

画像に日付を挿入するには

手順8で［日付］を選び、◀/▶で日付の種類を選んでください。［日時分］、［年月日］から選ぶことができます。［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（**別冊基本編** ➡ 17ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。

お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

画像をインデックスプリントする

何枚かの画像を並べてプリントすることができます。この機能をインデックスプリント*といいます。同じ画像を枚数指定してインデックス形式に並べて印刷することも、複数の異なる画像を組み合わせて1セットとし、このセットを部数指定して印刷することもできます。
52ページの手順を行い、本機を設定してからプリンターとつないでください。

* インデックスプリントはプリンターによっては対応していない場合があります。

- 動画／RAWモードで撮影した画像はプリントできません。
- Eメール／非圧縮（TIFF）画像は、同時に記録されたJPEG画像のみプリントされます。
- プリンターと接続中、プリンターからエラー発生の通知がくると、が約5秒間点滅します。その場合は、接続しているプリンターを確認してください。
- プリント中に、/CFスイッチを切り換えるとプリントが中断される場合があります。ご注意ください。

シングル画面のとき

1 /CFスイッチで記録メディアを選び、◀/▶でプリントしたい画像を表示する

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［］（プリント）を選び、マルチセレクターの中央を押す

4 ▲/▼で［この画像］を選び、マルチセレクターの中央を押す

プリント設定画面が表示されます。

- インデックスプリントや日付挿入に対応していないプリンターをお使いの場合、設定できない項目は表示されません。

5 ▲で［インデックス］、◀/▶で［入］を選ぶ

6 ▲/▼で［枚数］、◀/▶で画像を並べる枚数を選ぶ

20枚まで選ぶことができます。指定枚数分、画像を並べることができます。

7 ▼/▶で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

画像が印刷されます。

（USBケーブル抜き禁止）マークが画面に表示されているときは、USBケーブルを抜かないでください。

プリントを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順7で［終了］を選んでください。

他の画像もプリントするには

手順7のあとでプリントしたい画像を選び、▲で［プリント］を選んでください。その後、手順4から繰り返してください。

プリント予約マークの付いた画像をすべてプリントするには

手順4で［DPOF画像］を選んでください。表示されている画像と関係なく、（プリント予約）マークが付いているすべての画像がプリントされます。

画像に日付を挿入するには

手順6で［日付］を選び、◀/▶で日付の種類を選んでください。［日時分］、［年月日］から選ぶことができます。［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（**別冊基本編** ➡ 17ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

- 画像枚数によっては1枚の用紙に指定枚数分の画像が収まらないことがあります。

インデックス画面のとき

1 /CFスイッチで記録メディアを選び、/（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ▶で［］（プリント）を選び、マルチセレクターの中央を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、マルチセレクターの中央を押す

5 プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、マルチセレクターの中央を押す

選んだ画像に✔マークが付きます。

6 他の画像もプリントしたいときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

8 ▲で［インデックス］、◀/▶で［入］を選ぶ

9 ▲/▼で［枚数］、◀/▶でプリントする部数を選ぶ

20枚まで選ぶことができます。

10 ▼/▶で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

画像が印刷されます。

マークが画面に表示されているときは、USBケーブルを抜かないでください。

プリントを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順10で［終了］を選んでください。

プリント予約マークの付いた画像をすべてプリントするには

手順4で［DPOF画像］を選んでください。表示されている画像と関係なく、マークが付いているすべての画像がプリントされます。

フォルダ内のすべての画像をインデックスプリントするには

手順4で［フォルダ内全て］を選んでください。

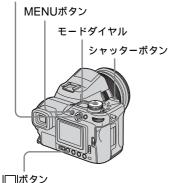
画像に日付を挿入するには

手順9で［日付］を選び、◀/▶で日付の種類を選んでください。［日時分］、［年月日］から選ぶことができます。［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（**別冊基本編** ➡ 17ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。

お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

動画を撮る

モードダイヤル：

音声付きの動画を撮影できます。

1 モードダイヤルを「」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀で［］（画像サイズ）、▲/▼ で希望のサイズを選ぶ

［640（ファイン）］、［640（スタンダード）］、［160］から選べます。

- ［640（ファイン）］は、"メモリースティック　PRO"とマイクロドライブのみに記録できます。

4 シャッターボタンを深く押し込む

「録画」と表示され、画像と音声の記録が始まります。

記録メディアの容量がいっぱいになると停止します。

5 録画を止めるには、シャッターボタンをもう1度深く押し込む

撮影中の画面上の表示は

画像には記録されません。

（画面表示切り換え）ボタンを押すたびに、画面表示オフ→画面表示オンの順で変わります。

ヒストグラムは表示されません。

表示される項目について詳しくは、117ページをご覧ください。

近接（マクロ）撮影する

モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ➡ 32ページの手順に従ってください。

セルフタイマーで撮影する

モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ➡ 33ページの手順に従ってください。

- 撮影するときは、マイク（**別冊基本編** ➡ 10ページ）に指が触れないようにご注意ください。
- 動画撮影中は、以下の操作ができません。
  – デジタルズーム
  – フラッシュ撮影
  – 日付・時刻挿入
- A/V OUT（MONO）端子に付属のA/V接続ケーブルがつながっているとき、［640（ファイン）］を設定すると、画面での撮影画像の表示ができません。画面は青くなります。
- 各サイズによる記録時間については、97、98ページをご覧ください。

画面で動画を見る

モードダイヤル：▶

本機の画面で動画を見ることができます。音声も本機のスピーカーから聞こえます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で見たい動画を選ぶ

画像サイズ［640（ファイン）］または［640（スタンダード）］で撮影した動画は画面いっぱいに表示されます。

画像サイズ［160］で撮影した動画はひとまわり小さく表示されます。

3 マルチセレクターの中央を押す

動画と音声が再生されます。
再生中は▶（再生）が画面に表示されます。

再生を止めるには

マルチセレクターの中央をもう1度押してください。

音量を調節するには

▲/▼で調節してください。

早送り／巻き戻しをするには

再生中に▶（送り）または◀（戻し）にマルチセレクターを動かしてください。
通常の再生に戻るには、マルチセレクターの中央を押してください。

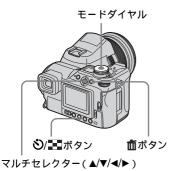
動画再生中の画面上の表示は

（画面表示切り換え）ボタンを押すたびに、画面表示オフ→画面表示オンの順で変わります。
ヒストグラムは表示されません。
表示される項目について詳しくは、119ページをご覧ください。

- 動画をテレビで見る方法は、静止画と同じです（**別冊基本編** → 40ページ）。
- 当社従来モデルで撮影した動画を再生すると、ひとまわり小さく表示される場合があります。

動画を削除する

モードダイヤル：▶

不要な動画を削除します。

- プロテクトされている動画は削除できません。
- 1度削除すると元に戻せないのでご注意ください。

シングル画面のとき

1. **モードダイヤルを「▶」にする**
2. **◀/▶で削除したい動画を表示する**
3. **🗑（削除）ボタンを押す**
   この時点ではまだ削除されていません。
4. **▲で［削除］を選び、マルチセレクターの中央を押す**
   「アクセス中」という表示が出て、動画が削除されます。
5. **他の動画も削除するときは、◀/▶で削除したい動画を表示し、手順4を繰り返す**

削除を中止するには

手順4または5で［終了］を選んでください。

インデックス画面のとき

1. **モードダイヤルを「▶」にして、⏲/▦（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする**
2. **🗑（削除）ボタンを押す**
3. **◀/▶で［選択］を選び、マルチセレクターの中央を押す**
4. **削除したい動画を▲/▼/◀/▶で選び、マルチセレクターの中央を押す**
   選んだ動画に🗑（削除）マークが付きます。

   この時点ではまだ削除されていません。
5. **他の動画も削除するときは、手順4を繰り返す**

❻ 🗑（削除）ボタンを押す

❼ ▶で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す

「アクセス中」という表示が出て、動画が削除されます。

削除を中止するには

手順❸または❼で［終了］を選んでください。

フォルダ内のすべての画像を削除するには

手順❸で［フォルダ内全て］を選び、マルチセレクターの中央を押します。次に［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押します。削除を中止するときは、◀で［キャンセル］を選び、マルチセレクターの中央を押してください。

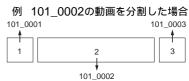
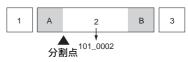
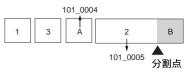
動画を編集する

モードダイヤル：▶

撮影した動画を分割したり、不要な部分を削除することができます。記録メディアの容量が足りないときやEメールに添付するときに便利です。

分割したときのファイル番号は右記のようになります

分割した動画は、最新のファイルとして、それぞれ新しい番号を割り振られ、選択している記録フォルダに記録されます。分割する前の元の動画は削除され、そのファイル番号は欠番になります。

〈例〉101_0002の動画を分割した場合

1 シーンAを切り離す

2 シーンBを切り離す

3 シーンAとBが不要なら削除する

4 必要なシーンだけが残る

動画を分割する

1 **モードダイヤルを「▶」にする**

2 **◀/▶で分割したい動画を表示する**

3 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

4 **▶で［✂］（分割）を選び、マルチセレクターの中央を押す。▲で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す**
動画が再生されます。

5 **分割する位置を決める**
分割したい位置で、マルチセレクターの中央を押します。

分割する位置を微調整したいときは、［◀II/II▶］（コマ戻し/コマ送り）を選び、◀/▶で微調整します。
分割する場所を選びなおしたいときは、［キャンセル］を選びます。動画が再び再生されます。

6 **分割する位置を決めたら、▲/▼で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す**

7 **▲で［実行］を選び、マルチセレクターの中央を押す**
動画が分割されます。

分割を中止するには

手順5または7で［終了］を選んでください。再生画面に戻ります。

- 下記の画像は分割できません。
  – 静止画
  – 分割できる充分な長さのない動画
  – プロテクトされている動画
- 一度分割した動画を元に戻すことはできません。
- 分割すると、元の動画は削除されます。
- 分割された動画は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

動画の不要な部分を削除する

1 動画の不要な部分を分割する
（63ページ）

2 削除したい部分の動画を表示する

3 🗑（削除）ボタンを押す
この時点ではまだ削除されていません。

4 ▲で［削除］を選び、マルチセレクターの中央を押す
表示されている動画が削除されます。

「Image Transfer」をインストールする

「Image Transfer」はWindowsのみに対応しています。

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「Image Transfer」（イメージトランスファー）を使うと、本機で撮影した画像をお使いのパソコンに簡単に取り込むことができます。

- パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了してください。
- 「Image Transfer」をお使いになるためには、USBドライバが必要です。お使いのパソコンに必要なドライバがインストールされていないときは、ドライバのインストールをうながす画面が表示されます。このときは、画面の指示に従って操作してください（**別冊基本編** ➡ 48ページ）。

1 パソコンの電源を入れる

- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いの方は、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

機種選択画面が表示されます。

機種選択画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイコンピュータ）→（ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

3 「Cyber-shot」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

インストールメニューが表示されます。

4 インストールメニュー画面の中の「Image Transfer」をクリックする

「設定言語の選択」画面が表示されます。

5 [▼] をクリックして「日本語」を選び、[OK] をクリックする

「Image Transfer セットアップへようこそ」画面が表示されます。

6 [次へ] をクリックする

「使用許諾契約」画面が表示されたら、[はい] をクリックする。

ソフトウェア使用許諾契約書の内容をよくご確認ください。同意された場合は、インストールの手順に進みます。「情報」画面が表示されます。

7 [次へ] をクリックする

8 「インストール先の選択」画面でインストールするフォルダを選び、[次へ] をクリックする。「プログラムフォルダの選択」画面でプログラムフォルダを選び、[次へ] をクリックする

9 「カメラなどがつながれたら、Image Transfer を自動的に起動します。」の「はい」がチェックされているのを確認し、［次へ］をクリックする

「Image Transfer」のインストールが始まります。

インストールが終わると、「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されます。

10 ［完了］をクリックする

インストール画面が閉じます。

「Image Transfer」で画像をコピーする

- 通常は「マイドキュメント」フォルダ内に「Image Transfer」、「日付」フォルダが作成され、その中に画像ファイルがすべてコピーされます。
- 「Image Transfer」の設定は設定画面で変更できます（69ページ）。
- 「ImageMixer」（69ページ）がインストールされていると、「Image Transfer」で画像をコピーしたあとに「ImageMixer」が自動起動し、画像一覧が表示されます。

別冊基本編 ➡ 51～52ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつないでください。
「Image Transfer」が自動起動し、記録メディア内の画像がコピーされます。

- Windows XPをお使いの場合は、右記をご覧ください。
- 「Image Transfer」が自動起動しない場合は、タスクトレイの「Image Transfer」のアイコンをダブルクリックして起動してください。

ここをダブルクリック

Windows XPの場合

Windows XPでは、自動再生ウィザードが起動するように設定されています。自動再生ウィザードを起動しないようにするには、下記の手順で設定を解除してください。

1 本機とパソコンを付属のUSBケーブルで接続する（**別冊基本編 ➡** 52ページ）。

2 ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする。

3 ［Sony MemoryStick］を右クリックし、［プロパティ］をクリックする。

4 設定を解除する。

①［自動再生］をクリックする。

②「内容の種類」を［画像］にする。

③「動作」の［実行する動作を選択］をチェックして［何もしない］を選び、［適用］をクリックする。

④「内容の種類」を［ビデオファイル］にして手順③を行い、次に「内容の種類」を［混在したコンテンツ］にして手順③を行う。

⑤［OK］をクリックする。
「プロパティ」画面が閉じます。

「Image Transfer」の設定を変更する

「Image Transfer」の設定を変更することができます。
タスクトレイの「Image Transfer」のアイコンを右クリックし［設定画面を開く］を選んでください。
設定できるのは、「基本の設定」、「コピーの設定」、「削除の設定」です。

ここを右クリック

「Image Transfer」が起動すると、下記の画面が表示されます。

「Image Transfer」起動時に［設定］を選んだ場合は、「基本の設定」のみ変更できます。

「ImageMixer」をインストールする

「ImageMixer」はWindows、Macintosh（Mac OS Xを除く）ともに対応しています。
本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「ImageMixer Ver.1.5 for Sony（イメージミキサーバージョン1.5フォーソニー）」を使うと、本機で撮影した画像をお使いのパソコンで手軽に楽しめます。

- パソコンの使用動作環境について詳しくは、CD-ROMに付属の取扱説明書をご覧ください。
- パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- Windowsをお使いの方は「Image Transfer」（67ページ）で簡単にパソコンに画像を取り込むことができます。本機からパソコンへ画像のコピーのみ行うという方に最適です。

ImageMixerに関するお問い合わせ
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：072-224-0181
受付時間：月〜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.imagemixer.com

Windowsの場合

1 パソコンの電源を入れる

- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いの方は、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

機種選択画面が表示されます。

機種選択画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイコンピュータ）→（ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

3 「Cyber-shot」の部分に⇖（ポインタ）を動かし、クリックする

インストールメニューが表示されます。

4 インストールメニュー画面の中の「ImageMixer」の部分に⇖（ポインタ）を動かし、クリックする

「設定言語の選択」画面が表示されます。

5 [▼] をクリックして「日本語」を選び、[OK] をクリックする

「ImageMixer用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

6 画面の指示に従って操作する

続けて指示に従って「ImageMixer」と「WinCDR Lite for Data」のインストールを行う。

インストール完了後、DirectXの「情報」画面が表示された場合は、画面の指示に従ってインストールし、再起動してください。その後、手順8に進んでください。

7 画面の指示に従って再起動する

8 パソコンからCD-ROMを取り出す

Macintoshの場合

1 パソコンの電源を入れる。

- ディスプレイの設定を800×600ドット以上、32000色モード以上にしてください。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。
機種選択画面が表示されます。

3 機種選択画面の中の「Cyber-shot」をクリックする。

4 インストールメニュー画面の中の「ImageMixer」をクリックする。

5 リストボックスから［日本語］を選択し、［Install］をクリックする。

6 画面の指示に従って操作する。
インストール画面の「完了」ボタンをクリックしてインストール画面を閉じてください。

7 をクリックしてタイトル画面を閉じる。

8 パソコンからCD-ROMを取り出す。

「ImageMixer」で画像を取り込む

「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」を使って、本機からパソコンに画像を取り込みます。

操作の前に

別冊基本編 → 51〜52ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつなぎ、本機を準備してください。

- 「ImageMixer」の使いかたについて詳しくは、画面右上の ? をクリックして、ヘルプをご覧ください。

Windowsの場合

ここでは、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーします。

1 「ImageMixer」を起動する

デスクトップ画面上の（ImageMixer Ver.1.5 for Sony）をダブルクリックします。
「ImageMixer」が起動し、メイン画面が表示されます。

2 をクリックする

画像を取り込むための画面が表示されます。

パソコンで楽しむ

Macintoshの場合

3 画像をパソコンに取り込む

① 画面左上のをクリックする。

② 画面左上のをクリックする。
記録メディア内の画像が一覧表示されます。

- マイクロドライブまたはCFカードをお使いの場合はをクリックしてください。

③ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

④「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、表示される「フォルダの参照」画面で［マイドキュメント］をクリックして、［OK］をクリックする。

⑤ をクリックする。

⑥ 画面右上のをクリックする。

⑦ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上のをクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

- 画像をにドラッグ＆ドロップすることもできます。

1「ImageMixer」を起動する。

2 をクリックする。

3 画像をパソコンに取り込む。

① 画面左上のをクリックする。

② 画面左上のをクリックする。
記録メディア内の画像が一覧表示されます。

- マイクロドライブまたはCFカードをお使いの場合はをクリックしてください。

③ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

④「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、画像の保存先を選び、［OK］をクリックする。

⑤ をクリックする。

⑥ 画面右上のをクリックする。

⑦ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上の（アイコン）をクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

- 画像を（アイコン）にドラッグ＆ドロップすることもできます。

「ImageMixer」で画像を見る

67、71ページでパソコンに取り込んだ画像を「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」を使って見ます。

- 「ImageMixer」を使うと、取り込んだ画像を編集することもできます。詳しくは、画面右上の ? をクリックして、ヘルプをご覧ください。

Windowsの場合

1 （アイコン）をクリックする

画像を見るための画面が表示されます。

2 表示したい画像をダブルクリックする

選んだ画像が表示されます。

動画を再生するには（▶）、再生を停止するには（■）をクリックします。

前の画面に戻るには

画面右上の（アイコン）をクリックします。

Macintoshの場合

1 をクリックする。

2 表示したい画像をダブルクリックする。
選んだ画像が表示されます。

前の画面に戻るには

画面右上の をクリックしてください。

• 画像の表示ができない場合は、仮想メモリの容量を増やしてください。

「ImageMixer」で画像を印刷する

「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」で開いた画像をプリンターで印刷します。あらかじめプリンターとパソコンを接続し、両方の機器の電源を入れておきます。
プリンターの接続や設定などについて詳しくは、プリンターに付属の取扱説明書をご覧ください。

• 動画の場合は先頭のシーンが印刷の対象となります。

Windowsの場合

1 画像を表示する

73ページの手順1の操作を行ってください。

2 印刷したい画像をクリックする

3 をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする

「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。

4 レイアウトを設定する

お好みに応じて設定してください。

通常は画面下の をクリックします。

5 用紙の設定をする

① 画面右下の をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。

② 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、[OK] をクリックする。

6 印刷する

① 画面右下の をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。

② [OK] をクリックする。

画像が印刷されます。

印刷できないときは

プリンターの接続や設定が正しいかどうか確認してください。詳しくは、お使いのプリンターに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 印刷する画像サイズ、パソコン環境などによっては、印刷に時間がかかることがあります。

Macintoshの場合

1. 画像を表示する。
2. 印刷したい画像をクリックする。
3. をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする。
「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。
4. レイアウトを設定する。
通常は画面下の をクリックします。
5. をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。
6. 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、[OK] をクリックする。
7. をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。
8. ［プリント］をクリックする。
画像が印刷されます。

「ImageMixer」でビデオCDを作成する

「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」でビデオCDを作成することができます。作成したビデオCDはビデオCD対応のDVDプレーヤーで再生できます。パソコンをご利用の場合は、ビデオCD対応のアプリケーションソフトで再生できます。

1 **「ImageMixer」を起動する**

2 **をクリックする**

ビデオディスク作成モードが起動します。

3 **ファイルやアルバムをメニュー画面にコピー＆ペーストする**

メニュー画面に画像が追加されます。

4 **をクリックする**

プレビューを行うこともできます。

5 **をクリックする**

ディスク作成のダイアログが表示されます。

6 **CD-Rドライブに新しいCD-Rを入れて［OK］ボタンをクリックする**

ディスクの作成が始まります。

- CD-RWはお使いになれません。
- ビデオCDの作成にはCD-Rドライブが必要です。

Macintosh版について

- ビデオCDのライティングを行うにはRoxio社のToast（別売り）が必要です。
- プレビューの表示で動画ファイルの再生時間が短くなることがあります。

故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

1 77～90ページの項目をチェックし、本機を点検する
画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。95ページをご覧ください。

2 バッテリー／“メモリースティック”カバー内側にあるRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる
（この操作を行うと、日時などの設定は解除されます）

3 デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページで確認する
http://www.sony.co.jp/support-di/

4 テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる（裏表紙）

バッテリー・電源

症状	原因	処置
バッテリーを充電できない。	• 本機の電源が入っている。	→ 本機の電源を切る（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
本機にバッテリーを入れられない。	• 正しく入れていない。	→ バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみを外側に押しながら入れる（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。
バッテリー充電中、表示窓の▭表示が早い点滅をする。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • バッテリーが故障している。	→ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。 → テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

症状	原因	処置
バッテリー充電中、表示窓の▭表示が点滅していない。	• ACアダプターがはずれている。 • ACアダプターが故障している。 • バッテリーが正しく取り付けられていない。 • 充電が完了している。	→ きちんと接続し直す（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。 → テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。 → バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。 —
バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	• 温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 • 残量表示機能と実際の残量にズレが生じた。 • バッテリーが消耗している。 • バッテリーそのものの寿命（112ページ）。	→ 111ページをご覧ください。 → バッテリーを使い切ってから充電すると、残量が正しく表示される（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。 → 新しいバッテリーと交換する。
バッテリーの消耗が早い。	• 温度が極端に低いところで使用している。 • DCプラグが汚れていて充電が不充分。 • バッテリーそのものの寿命（112ページ）。	→ 111ページをご覧ください。 → DCプラグを綿棒などで掃除してから充電する（107ページ）。 → 新しいバッテリーと交換する。
電源が入らない。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • ACアダプターがはずれている。 • ACアダプターが故障している。 • バッテリーが消耗している。 • バッテリーそのものの寿命（112ページ）。	→ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。 → きちんと接続し直す（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。 → テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。 → 新しいバッテリーと交換する。

症状	原因	処置
電源が途中で切れる。	• 操作しない状態が約3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる（**別冊基本編** ━ 16ページ）。 • バッテリーが消耗している。	→ 電源を入れ直すか（**別冊基本編** ━ 16ページ）、ACアダプターを使う（**別冊基本編** ━ 15ページ）。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ━ 12ページ）。

静止画／動画を撮る

症状	原因	処置
電源を入れても液晶画面がつかない。	• FINDER/LCDスイッチが「FINDER」になっている。	→「LCD」にする（**別冊基本編** ━ 28ページ）。
ファインダーの画像がはっきりしない。	• 視度調節が正しくない。	→ 視度を正しく調節する（**別冊基本編** ━ 28ページ）。
画面に被写体が写らない。	• モードダイヤルが「📷」または「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」になっていない。	→ モードダイヤルを「📷」または「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」にする（59ページ、**別冊基本編** ━ 25ページ）。
動画撮影時、画面が青くなって被写体が写らない。	• A/V OUT（MONO）端子にA/V接続ケーブルがつながっているとき、画像サイズが［640（ファイン）］になっている。	→ A/V接続ケーブルを抜く。 → 画像サイズを［640（ファイン）］以外にする。
フォーカスが合わない。	• 被写体が近すぎる。 • 静止画撮影時、シーンセレクションの🌙（夜景モード）、⛰（風景モード）が選ばれている。 • 手動ピント合わせになっている。	→ 近接（マクロ）撮影モードにする。近接（マクロ）撮影モードをお使いの場合でも、最短撮影距離よりもカメラを離して撮影してください（**別冊基本編** ━ 32ページ）。 → 🌙（夜景モード）、⛰（風景モード）以外にする（**別冊基本編** ━ 36ページ）。 → FOCUSスイッチを「AUTO」にする（26ページ）。

症状	原因	処置
プレシジョンデジタルズームができない。	•「SET UP」の［デジタルズーム］が［スマート］になっている。 • RAWモードで撮影している。	→［プレシジョン］にする（6、103ページ、**別冊基本編** ━▶ 29ページ）。 → RAWモードではプレシジョンデジタルズームは使えない（39ページ、**別冊基本編** ━▶ 29ページ）。
スマートズームができない。	•「SET UP」の［デジタルズーム］が［プレシジョン］になっている。 • 画像サイズが［8M］または［3:2］になっている。 • マルチ連写で撮影している。 • RAWモードで撮影している。	→［スマート］にする（6、103ページ、**別冊基本編** ━▶ 29ページ）。 → 画像サイズを［8M］または［3:2］以外にする（**別冊基本編** ━▶ 22ページ）。 → マルチ連写中はスマートズームは使えない（35ページ、**別冊基本編** ━▶ 29ページ）。 → RAWモードではスマートズームは使えない（39ページ、**別冊基本編** ━▶ 29ページ）。
画像が暗い。	• 逆光になっている。 • 画面が暗い。	→ 測光モードを選ぶ（17ページ）。 → 露出を補正する（18ページ）。 → フラッシュを強制発光する（27ページ）。 → 画面の明るさを調節する（6、105ページ）。
画像が明るい。	• 舞台撮影など、暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影している。 • 画面が明るい。	→ 露出を補正する（18ページ）。 → 画面の明るさを調節する（6、105ページ）。
暗い場所で液晶画面を見ると画像にノイズが目立つ。	• 暗い場所でも確認できるように液晶画面を一時的に明るくする機能が働いている。	→ 撮影される画像には影響ありません。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。	• スミアという現象。	→ 故障ではない。

症状	原因	処置
撮影できない。	• 記録メディアが入っていない。	→ 記録メディアを入れる（**別冊基本編** ➡ 20、21ページ）。
	• 記録メディアの容量がない。	→ 記録メディア内の画像を削除する（**別冊基本編** ➡ 41ページ）。 → 記録メディアを交換する。
	• /CFスイッチが正しく設定されていない。	→ 正しく設定する（**別冊基本編** ➡ 19ページ）。
	• " メモリースティック "の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 解除する（109ページ）。
	• CFカードカバーが開いている。	→ CFカードカバーを閉じる（**別冊基本編** ➡ 21ページ）。
	• フラッシュ充電中は撮影できない。	—
	• 静止画撮影時、モードダイヤルが「」または「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」になっていない。	→ モードダイヤルを「」または「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」にする（**別冊基本編** ➡ 25ページ）。
	• 動画撮影時、モードダイヤルが「」になっていない。	→ モードダイヤルを「」にする（59ページ）。
	• 動画撮影時、画像サイズが［640（ファイン）］になっている。	→ " メモリースティック　PRO "またはマイクロドライブを入れる（59、109ページ）。 → 画像サイズを［640（ファイン）］以外にする。
撮影に時間がかかる。	• NRスローシャッター機能が働いている。	→ 1/25秒より速いシャッタースピードに設定する（14ページ）。
NIGHTSHOT/NIGHTFRAMING**モードを切り換えたとき、または**NIGHTFRAMING**でシャッターボタンを軽く押したときに音がする。**	• レンズ動作の音です。	→ 故障ではない。

症状	原因	処置
画像の色が正しくない。	• NIGHTSHOTまたはNIGHTFRAMINGになっている。 • ピクチャーエフェクトが設定されている。	→ 解除する（37ページ）。 → 解除する（38ページ）。
NIGHTSHOTまたはNIGHTFRAMINGができない。	• モードダイヤルが「S」、「A」、「M」、「SCN」になっている。 • 手動ピント合わせになっている。	→ モードダイヤルを「📷」、「P」または「🎞」（NIGHTSHOTのみ）にする（37ページ）。 → 手動ピント合わせ中はNIGHTFRAMINGは使えない。FOCUSスイッチを「AUTO」にする（37ページ）。
フラッシュ撮影ができない。	• モードダイヤルが「🎞」になっている。 • 設定が⊛（発光禁止）になっている。 • 静止画撮影時、シーンセレクションの☽（夜景モード）が選ばれている。 • 静止画撮影時、シーンセレクションの▲（風景モード）が選ばれている。 • マルチ連写、連写、ブラケットモードになっている。 • 「SET UP」の［ホットシュー］が［入］になっている。 • 「SET UP」の［ポップアップフラッシュ］が［マニュアル］になっているとき、⏏OPEN（FLASH）スイッチでフラッシュ発光部を持ち上げていない。 • NIGHTSHOTになっている。	→ モードダイヤルを「📷」または「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」にする（**別冊基本編** ➡ 25ページ）。 → オート（表示なし）または⚡（強制発光）、⚡SL（スローシンクロ）にする（27ページ）。 → ☽（夜景モード）以外にする（**別冊基本編** ➡ 36ページ）。 → ⚡（強制発光）にする（**別冊基本編** ➡ 36ページ）。 → マルチ連写、連写、ブラケットモード以外にする。 → ［切］にする（6、104ページ）。 → 「SET UP」で［オート］にする（6、104ページ）。または⏏OPEN（FLASH）スイッチでフラッシュ発光部を持ち上げる（28ページ）。 → NIGHTFRAMINGにするか解除する（37ページ）。
近接（マクロ）撮影ができない。	• シーンセレクションの☽（夜景モード）または▲（風景モード）が選ばれている。	→ ☽（夜景モード）、▲（風景モード）以外にする（**別冊基本編** ➡ 36ページ）。

症状	原因	処置
マルチ連写、連写、ブラケット撮影ができない。	• [Mode]（撮影モード）が、[通常撮影] 以外になっている。	→ [通常撮影] にする。
被写体の目が赤く写る。	—	→ 赤目軽減モードにする（28ページ）。
正しい撮影日時が記録されない。	• 日付・時刻が合っていない。	→ 日付・時刻を合わせる（**別冊基本編** → 17ページ）。
シャッターを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。	• 露出が合っていない。	→ 露出を補正する（18ページ）。

画像を見る

症状	原因	処置
再生できない。	• モードダイヤルが「▶」になっていない。	→ モードダイヤルを「▶」にする（**別冊基本編** → 38ページ）。
	• パソコンでフォルダ／ファイルの名前を変更した。	→ **別冊基本編**の62ページをご覧ください。
	• パソコンで加工した画像は本機で再生できない。	—
	• USBモードになっている。	→ USB接続を終了する（**別冊基本編** → 58ページ）。
	• CFカードカバーが開いている。	→ CFカードカバーを閉じる（**別冊基本編** → 21ページ）。
表示直後に再生画像が粗い。	• 画像処理のため、表示直後に画像が粗くなる。	→ 故障ではない。
テレビに画像が出ない。	•「SET UP」の [ビデオ信号出力] が [PAL] になっている。	→ [NTSC] にする（6、106ページ）。
	• 接続が正しくない。	→ 接続を確認する（**別冊基本編** → 40ページ）。
パソコンで再生できない。	—	→ 85ページをご覧ください。

画像を削除する／編集する

症状	原因	処置
削除できない。	• 画像がプロテクトされている。 • "メモリースティック"の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 画像のプロテクトを解除する（48ページ）。 → 誤消去防止スイッチを解除する（109ページ）。
誤って消してしまった。	• 一度削除した画像は元に戻せない。	→ 画像にプロテクトをかけると、誤消去を防げます（48ページ）。 →"メモリースティック"の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤消去を防げます（109ページ）。
リサイズができない。	• 動画／マルチ連写画像／RAWデータファイル／非圧縮（TIFF）画像はリサイズできない。	—
プリント予約マークが付かない。	• 動画／RAWモードで撮影した画像にはプリント予約マークを付けられない。	—
画像を分割できない。	• 分割できる充分な長さのない動画は分割できない。 • プロテクトされている動画は分割できない。 • 静止画は分割できない。	— → 画像のプロテクトを解除する（48ページ）。 —

パソコン

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

Digital Imaging Customer Support http://www.sony.co.jp/support-di/

症状	原因	処置
対応しているOSが分からない。	—	→「パソコンの推奨使用環境」を確認する（**別冊基本編** ➡ 47ページ）。
USBドライバをインストールできない。	—	→ Windows 2000を使用している場合は、Administrator（管理者権限）でログオンする（**別冊基本編** ➡ 48ページ）。
本機がパソコンに認識されない。	• 本機の電源が入っていない。	→ 本機の電源を入れる（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
	• バッテリー残量が少ない。	→ ACアダプターを使う（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
	• 付属のUSBケーブルを使っていない。	→ 付属のUSBケーブルを使う（**別冊基本編** ➡ 52ページ）。
	• USBケーブルがしっかり差し込まれていない。	→ 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて、しっかりと差し込み、USBモードになっていることを確認する（**別冊基本編** ➡ 52ページ）。
	•「SET UP」の［USB接続］が［標準］になっていない。	→［標準］にする（106ページ）。
	• パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	→ キーボード／マウス以外は取りはずす。
	• 本機がパソコン本体に直接接続されていない。	→ USBハブ経由などで接続せずに本機とパソコンを直接接続する。
	• USBドライバがインストールされていない。	→ USBドライバをインストールする（**別冊基本編** ➡ 48ページ）。
	• 付属のCD-ROMから「USBドライバ」をインストールする前に、USBケーブルで本機とパソコンを接続したため、デバイスが正しく認識されていない。	→ 正しく認識されなかったデバイスを削除してから、USBドライバをインストールする（**別冊基本編** ➡ 48、55ページ）。
	• CFカードカバーが開いている。	→ CFカードカバーを閉じる（**別冊基本編** ➡ 21ページ）。

パソコン（つづき）

症状	原因	処置
画像をコピーできない。	• 本機とパソコンの接続が正しくない。 • お使いのOSによって手順が違う。 — —	→ 本機とパソコンを正しくUSB接続する（**別冊基本編** ➡ 52ページ）。 → お使いのOSに対応した手順でコピーする（**別冊基本編** ➡ 53、56、63ページ）。 →「Image Transfer」ソフトウェアをお使いの場合は、67ページをご覧ください。 →「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、71ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。
USB接続をしたときに「Image Transfer」が自動起動しない。	— —	→「Image Transfer」を「自動的に起動する」に設定する（69ページ）。 → パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をする。
画像を再生できない。	• RAWモードで撮影した画像を再生しようとした。 — —	→ 付属のCD-ROMから専用のソフトウェアをインストールする（39ページ）。 →「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、71ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。 → パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
動画を再生すると画像や音が途切れる。	• 記録メディアから直接再生している。	→ パソコンのハードディスクに動画をコピーして、ハードディスクのファイルを再生する（67、71ページ、**別冊基本編** ➡ 53、56、63ページ）。
画像を印刷できない。	— —	→ お使いのプリンターの設定を確認してください。 → 74ページをご覧になるか、「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

症状	原因	処置
付属のCD-ROMをパソコンにセットするとエラーメッセージが表示される。	• パソコンのディスプレイの設定が正しくない。	→ パソコンのディスプレイの設定を以下のように設定する。 Windowsの場合： 800×600ドット以上 High Color（16bitカラー、65000色）以上 Macintoshの場合：800×600ドット以上 32000色モード以上

“ メモリースティック ”

症状	原因	処置
本機に入らない。	•“ メモリースティック ”を入れる向きが違っている。	→ 正しい向きにして入れる（**別冊基本編** ➡ 20ページ）。
記録できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 •“ メモリースティック ”の容量がいっぱいになっている。 • [MS]/CFスイッチが「CF」になっている。 • 動画撮影時、画像サイズが［640（ファイン)］になっている。	→ 誤消去防止を解除する（109ページ）。 → 不要な画像を削除する（61ページ、**別冊基本編** ➡ 41ページ）。 →「[MS]」にする（**別冊基本編** ➡ 19ページ）。 →“ メモリースティック　PRO ”またはマイクロドライブを使う（59、109ページ）。 → 画像サイズを［640（ファイン)］以外にする。
フォーマットできない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 誤消去防止を解除する（109ページ）。
誤ってフォーマットしてしまった。	• フォーマットすると、“ メモリースティック ”内のデータはすべて消去され、元に戻せない。	→“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤フォーマットを防げます（109ページ）。

マイクロドライブまたはCFカード

症状	原因	処置
本機に入らない。	• 本機では使えないCFカードを入れようとしている。 • マイクロドライブまたはCFカードを入れる向きが違っている。	— → 正しい向きにして入れる（**別冊基本編** → 21ページ）。
記録できない。	• マイクロドライブまたはCFカードの容量がいっぱいになっている。 • 本機では使えないCFカードが入っている。 • CFカードカバーが開いている。 • /CFスイッチが「」になっている。 • CFカードでの動画撮影時、画像サイズが［640（ファイン）］になっている。	→ 不要な画像を削除する（61ページ、**別冊基本編** → 41ページ）。 — → CFカードカバーを閉じる（**別冊基本編** → 21ページ）。 →「CF」にする（**別冊基本編** → 19ページ）。 →“メモリースティック PRO”またはマイクロドライブを使う（59、109ページ）。 → 画像サイズを［640（ファイン）］以外にする。
マイクロドライブが熱くなっている。	• 長時間使用している。	→ 故障ではない。
誤ってフォーマットしてしまった。	• フォーマットすると、マイクロドライブまたはCFカード内のデータはすべて消去され、元に戻せない。	—

PictBridge規格対応プリンター

症状	原因	処置
プリンターと接続できない。	• プリンターがPictBridge規格に対応していない。 • プリンターが接続できない状態になっている。 •「SET UP」の［USB接続］が［PictBridge］になっていない。 • 接続状況によっては、接続が確立できない場合がある。	→ PictBridge規格に対応しているかどうか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。 → プリンターの電源が入り、接続可能な状態になっていることをご確認ください。 →［PictBridge］にする（106ページ）。 → USBケーブルを抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
プリントできない。	• プリンターと接続されていない。 • プリンターの電源が入っていない。 • プリント中に「終了」を選んだ場合、お使いのプリンターによっては再度印刷ができない場合がある。 • 動画／RAWモードで撮影した画像はプリントできない。 • 本機以外で撮影した静止画、またはパソコンで加工した画像はプリントできないことがあります。	→ 本機とプリンターがUSBケーブルで正しく接続されているかどうかをご確認ください。 → プリンターの電源を入れる。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。 → USBケーブルを抜き、接続し直してください。それでも復帰しない場合は、USBケーブルをもう1度抜き、プリンターの電源を入れ直してから接続し直してください。 — —
プリントが中断される。	• （USBケーブル抜き禁止）マークが消える前に、USBケーブルを抜いた。 • 操作の途中で/CFスイッチを切り換えた。	— —

困ったときは

PictBridge規格対応プリンター（つづき）

症状	原因	処置
日付挿入／インデックスプリントができない。	• プリンターが日付挿入／インデックスプリントに対応していない。 • プリンターによっては、インデックスプリントでは日付が挿入されない場合がある。	→ 日付挿入／インデックスプリントに対応しているかどうか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。 → プリンターのメーカーにお問い合わせください。
日付部分に「---- -- --」などが印刷される。	• 画像ファイルに印刷可能な撮影日時情報が入っていない。	→ 印刷可能な撮影日時情報が入っていない画像ファイルでは、日付の印刷を行うことができない。［日付］を［切］に設定して印刷してください。

その他

症状	原因	処置
操作を受け付けない。	• "インフォリチウム"バッテリーを使っていない。 • バッテリーが残り少ない（表示が出る）。 • ACアダプターがしっかり差し込まれていない。	→ バッテリーは必ず"インフォリチウム"バッテリーを使う（111ページ）。 → 充電する（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。 → DC IN端子と壁のコンセントにしっかり差し込む（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
電源が入っているのに操作できない。	• 内部システムの誤動作。	→ 電源を取りはずし、約1分後再び電源をつなぎ、本機の電源を入れる。これでも操作できないときは、バッテリー／"メモリースティック"カバー内側のRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる。（この操作をすると日時などの設定が解除される。）
画面上の表示が分からない。	—	→ 表示の種類を確認する（115～119ページ）。
レンズがくもる。	• 結露している。	→ 電源を切って約1時間そのままにしてから使用する（108ページ）。
長時間使用すると、本機が熱くなる。	—	→ 故障ではない。

警告表示について

画面に次のような表示が出ることがあります。

表示	意味／処置
メモリースティックがありません	•“ メモリースティック ”を入れてください（**別冊基本編** ➡ 20ページ）。 • /CFスイッチを「CF」にして、マイクロドライブまたはCFカードで撮ってください。
システムエラー	• 電源を入れ直してください（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
メモリースティックエラー	• 本機では使えない“ メモリースティック ”が入っている（109ページ）。 •“ メモリースティック ”が壊れている。 •“ メモリースティック ”の端子部が汚れている。 •“ メモリースティック ”を正しく入れてください（**別冊基本編** ➡ 20ページ）。
非対応のメモリースティックです	• 本機では使えない“ メモリースティック ”が入っている（109ページ）。
読み出し専用のメモリースティックです	• 本機ではこの“ メモリースティック ”への画像記録や消去はできません。
メモリースティックがロックされています	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。解除してください（109ページ）。
メモリースティックの残量がありません	•“ メモリースティック ”の空き容量が足りないので記録ができない。不要な画像やデータを削除してください（61ページ、**別冊基本編** ➡ 41ページ）。
CF**カードがありません**	• マイクロドライブまたはCFカードを入れてください（**別冊基本編** ➡ 21ページ）。 • /CFスイッチを「」にして、“ メモリースティック ”で撮ってください。
CF**カードエラー**	• 本機では使えないCFカードが入っている（110ページ）。 • マイクロドライブまたはCFカードが壊れている。 • マイクロドライブまたはCFカードの端子部が汚れている。 • マイクロドライブまたはCFカードを正しく入れてください（**別冊基本編** ➡ 21ページ）。

警告表示について（つづき）

表示	意味／処置
非対応のCFカードです	• 本機では使えないCFカードが入っている（**別冊基本編** ━ 19ページ）。
CF**カードがロックされています**	• マイクロドライブまたはCFカードが記録できない状態になっている。記録メディアの取扱説明書をご覧ください。
CF**カードの残量がありません**	• マイクロドライブまたはCFカードの空き容量が足りないので記録ができない。不要な画像やデータを削除してください（61ページ、**別冊基本編** ━ 41ページ）。
ふたがあいています	• CFカードカバーを閉じてください。
フォーマットエラー	• 記録メディアが正しくフォーマットされていない。フォーマットし直してください（**別冊基本編** ━ 44ページ）。 • コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック　デュオ　アダプターご使用時、“ メモリースティック　デュオ ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。解除してください。
“ インフォリチウム ”バッテリーを使ってください	• “ インフォリチウム ”対応以外のバッテリーを使っている。
(電池マーク)	• バッテリーの残量が少ない。バッテリーを充電してください（**別冊基本編** ━ 12ページ）。ご使用状況やバッテリーパックの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。
フォルダエラー	• 上3桁の番号が同じフォルダが記録メディア内にある（例：123MSDCFと123ABCDE）。別のフォルダを選択するかフォルダを作成してください。
これ以上フォルダ作成できません	• 上3桁の番号が「999」のフォルダが記録メディア内にある。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。
記録できません	• 本機で記録フォルダに設定できないフォルダを選択した。他のフォルダを選択してください（9ページ）。
(手ぶれマーク)	• 光量が不足している、またはシャッタースピードが遅く設定されているため手ぶれが起こりやすくなっている。フラッシュを使うか、三脚などで本機をしっかりと固定してください。

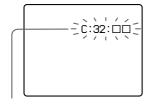
表示	意味／処置
“ ナイトショット ”	• NIGHTSHOT時に無効な操作をした。
“ ナイトフレーミング ”	• NIGHTFRAMING時に無効な操作をした。
マニュアルフォーカスは無効です	• モードダイヤルが「📷」のときに、FOCUSスイッチを「MANUAL」にした。
フラッシュ部が上がっていません	• ⟋OPEN（FLASH）スイッチでフラッシュ発光部を持ち上げてください（28ページ）。
640（ファイン）に対応していません	• ［640（ファイン）］の動画に対応していない記録メディアが入っている（59ページ）。
ビジー	• マイクロドライブ使用時に、転送レートの悪化により、動画記録の処理が間に合わなくなった。
バッファーオーバー	• マイクロドライブ使用時に、転送レートの悪化により動画記録の処理が間に合わなくなった（ビジー警告表示の後に表示されます）。
リードエラー	• マイクロドライブ使用時に、本機内部の温度・振動によりマイクロドライブに記録してある動画が再生できなくなった。 • ファイルが壊れている。
ファイルエラー	• 画像再生時の異常。
ファイルがプロテクトされています	• 画像にプロテクトがかけられている。プロテクトを解除してください（48ページ）。
画像サイズオーバーです	• 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。
このフォルダにはファイルがありません	• フォルダ内に画像が記録されていない。
分割できません	• 分割できる充分な長さがない。 • 動画ではない。
無効な操作です	• 本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。

警告表示について（つづき）

表示	意味／処置
接続先を確認してください	• 本機の設定が［PictBridge］になっているのに、PictBridgeに対応していない機器と接続している。接続している機器を確認してください。 • 接続状況によっては接続が確立できない場合がある。USBケーブルを抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
機器と接続してください	• プリンターと接続する前にプリントしようとした。PictBridge規格対応のプリンターと接続してください。
プリントできる画像がありません	• プリント予約マークを付けないで［DPOF画像］を実行しようとした。 • 動画／RAWモードで撮影した画像しか入っていないフォルダを選んで、［フォルダ内全て］を実行しようとした。動画／RAWモードで撮影した画像はプリントできません。
プリンタービジー	• 接続しているプリンターが印刷中などで、印刷要求を受け付けることができない。接続しているプリンターを確認してください。
用紙エラー	• 接続しているプリンターが、用紙切れ、紙詰まりなどの用紙に関するエラーを起こしている。接続しているプリンターを確認してください。
インクエラー	• 接続しているプリンターが、インクに関するエラーを起こしている。接続しているプリンターを確認してください。
プリンターエラー	• プリンターからエラー発生の通知がきている。接続しているプリンターを確認してください。または、プリントしたい画像が壊れていないか確認してください。
	• 接続しているプリンターへのデータ転送が完了していない可能性がある。USBケーブルを抜かないでください。

自己診断表示

ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。これは本機に異常が起きたときに画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。
詳しくは右の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ハードウェアの異常。	電源を入れ直す （**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
C:13:□□	データが読めない／書けない。	記録メディアを数回抜き差しする。
	フォーマットしていない記録メディアを入れた。	フォーマットする （**別冊基本編** ➡ 44ページ）。
	本機では使えない記録メディアを入れた。またはデータが壊れている。	記録メディアを交換する （**別冊基本編** ➡ 19、20、21ページ）。
E:61:□□ E:91:□□	何らかの異常が起きている。	バッテリー／“ メモリースティック ”カバー内側のRESETボタン（77ページ）を押してから、電源を入れる。

「対応のしかた」を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、修理が必要な場合があります。テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

記録枚数／時間について

記録メディアの容量、画像サイズ、画質によって記録できる枚数、時間が異なります。表を参考に用途に応じて記録メディアをお選びください。

- 撮影枚数はファイン（スタンダード）の順で記載しています。
- 記録枚数／時間は撮影状況によっては数値と異なる場合があります。
- 通常撮影時の記録枚数については、**別冊基本編** → 23、24ページをご覧ください。
- 撮影残枚数が9999枚より多いときは、画面に「>9999」と表示されます。表示窓には、999枚より多いときに「999」と表示されます。

“メモリースティック”

RAW（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
8M	0 (0)	1 (1)	3 (3)	6 (6)	10 (11)	22 (24)	45 (49)
3:2	—	—	—	—	—	—	—
5M	0 (0)	1 (1)	3 (3)	6 (6)	11 (12)	23 (25)	48 (51)
3M	0 (0)	1 (1)	3 (3)	6 (7)	12 (12)	25 (26)	51 (53)
1M	0 (0)	1 (1)	3 (3)	7 (7)	12 (13)	26 (26)	53 (54)
VGA	0 (0)	1 (1)	3 (3)	7 (7)	13 (13)	27 (27)	55 (55)

TIFF（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
8M	0 (0)	1 (1)	2 (2)	4 (4)	8 (8)	17 (18)	34 (37)
3:2	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	9 (9)	18 (20)	38 (41)
5M	0 (0)	1 (1)	2 (2)	4 (5)	8 (9)	17 (18)	36 (38)
3M	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	9 (9)	18 (19)	38 (39)
1M	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	9 (9)	19 (19)	39 (39)
VGA	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	9 (9)	19 (19)	40 (40)

ボイスメモ*（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
8M	3 (7)	8 (14)	16 (29)	32 (58)	58 (106)	119 (216)	242 (442)
3:2	3 (7)	8 (14)	16 (29)	32 (58)	58 (106)	119 (216)	242 (442)
5M	6 (11)	12 (22)	25 (45)	50 (91)	90 (166)	183 (337)	375 (689)
3M	9 (17)	19 (34)	39 (69)	79 (138)	142 (246)	290 (500)	592 (1022)
1M	22 (38)	45 (78)	91 (157)	183 (316)	324 (549)	660 (1117)	1347 (2280)
VGA	69 (121)	140 (245)	281 (492)	564 (987)	1020 (1785)	2074 (3630)	4234 (7410)

* 音声記録5秒の場合

Eメール

（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
8M	4 (7)	8 (14)	16 (29)	32 (59)	59 (108)	120 (220)	244 (449)
3:2	4 (7)	8 (14)	16 (29)	32 (59)	59 (108)	120 (220)	244 (449)
5M	6 (11)	12 (23)	25 (46)	50 (94)	91 (170)	186 (345)	380 (705)
3M	9 (17)	20 (35)	40 (71)	80 (143)	145 (255)	296 (518)	604 (1058)
1M	23 (42)	47 (85)	96 (171)	192 (343)	340 (595)	691 (1210)	1411 (2470)
VGA	81 (162)	163 (327)	328 (657)	658 (1317)	1190 (2381)	2420 (4841)	4940 (9881)

マルチ連写

（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
1M	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202 (376)	357 (649)	726 (1320)	1482 (2694)

動画

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
640(ファイン)	—	—	—	—	0:02:57	0:06:02	0:12:20
640(スタンダード)	0:00:42	0:01:27	0:02:56	0:05:54	0:10:42	0:21:47	0:44:27
160	0:11:12	0:22:42	0:45:39	1:31:33	2:51:21	5:47:05	11:44:22

記録時間の読みかた：例えば［1:31:33］は、1時間31分33秒です。

マイクロドライブ

RAW
（単位：枚）

	1G（DSCM-11000）
8M	50 (55)
3:2	—
5M	54 (57)
3M	56 (58)
1M	59 (60)
VGA	61 (61)

TIFF
（単位：枚）

	1G（DSCM-11000）
8M	38 (41)
3:2	42 (45)
5M	40 (42)
3M	42 (43)
1M	43 (44)
VGA	44 (44)

ボイスメモ*
（単位：枚）

	1G（DSCM-11000）
8M	269 (490)
3:2	269 (490)
5M	416 (764)
3M	657 (1133)
1M	1494 (2528)
VGA	4695 (8217)

* 音声記録5秒の場合

Eメール
（単位：枚）

	1G（DSCM-11000）
8M	271 (498)
3:2	271 (498)
5M	421 (782)
3M	670 (1173)
1M	1565 (2739)
VGA	5478 (10956)

マルチ連写
（単位：枚）

	1G（DSCM-11000）
1M	1643 (2988)

動画

	1G（DSCM-11000）
640(ファイン)	0:13:41
640(スタンダード)	0:49:13
160	12:42:06

記録時間の読みかた：例えば［12:42:06］は、12時間42分6秒です。

• 2 GBを超える記録メディアをご使用の場合でも、1回の連続撮影で記録可能な最大ファイルサイズは2 GBまでとなります。

メニュー項目について

モードダイヤルの位置によって操作できる項目は変わります。
画面には、設定可能な項目のみが表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

モードダイヤルが「📷」のとき

項目	設定	意味
(画像サイズ)	■8M／3:2／5M／3M／1M／VGA	静止画撮影時の画像サイズを選ぶ（**別冊基本編** → 22ページ）。
Mode（撮影モード）	RAW TIFF ボイスメモ Eメール ■通常撮影	－JPEGファイルと別にRAWデータファイルを記録する（39ページ）。 －JPEGファイルと別に非圧縮（TIFF）ファイルを記録する（40ページ）。 －JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（41ページ）。 －設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（40ページ）。 －通常の撮影をする。

モードダイヤルが「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のとき

項目	設定	意味
SCN（シーン）	／／／■	シーンセレクションを設定する（**別冊基本編** → 36ページ）。（「SCN」以外のときは設定できません。）
ISO（ISO）	800／400／200／100／64／ ■オート	ISO感度を選ぶ。暗い場所や高速で移動する被写体の撮影には大きい値を、高画質を得るには小さい値を選ぶ（23ページ）。（「SCN」のときは設定できません。）

モードダイヤルが「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のとき（つづき）

項目	設定	意味
（画像サイズ）	■8M／3:2／5M／3M／1M／VGA	静止画撮影時の画像サイズを選ぶ（**別冊基本編** ➞ 22ページ）。
（画質）	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する／標準の画質で記録する（7ページ）。
Mode（撮影モード）	RAW TIFF ボイスメモ Eメール ■通常撮影	－JPEGファイルと別にRAWデータファイルを記録する（39ページ）。 －JPEGファイルと別に非圧縮（TIFF）ファイルを記録する（40ページ）。 －JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（41ページ）。 －設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（40ページ）。 －通常の撮影をする。
BRK（ブラケット設定）	±1.0EV／■±0.7EV／±0.3EV	露出を変えて3枚の画像を撮影するときの露出補正量を設定する（22ページ）。（/BRKボタンで「BRK」（ブラケット）以外を選んでいるときは、設定できません。）
（インターバル）	1/7.5／1/15／■1/30	マルチ連写のシャッター間隔を設定する（35ページ）。（/BRKボタンで「」（マルチ連写）以外を選んでいるときは、設定できません。）
±（フラッシュレベル）	明／■標準／暗	フラッシュの発光量を調節する（30ページ）。
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（38ページ）。
COLOR（色再現）	リアル／■スタンダード	色の再現方法を選ぶ（34ページ）。
（彩度）	＋／■標準／–	画像の彩度を調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。（「SCN」のときは設定できません。）
（コントラスト）	＋／■標準／–	画像のコントラストを調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。（「SCN」のときは設定できません。）

項目	設定	意味
（シャープネス）	＋／■標準／–	画像のシャープネスを調節する。設定が標準以下のときは、画面にが出る。（「SCN」のときは設定できません。）

モードダイヤルが「」のとき

項目	設定	意味
（画像サイズ）	640(ファイン)／ ■640(スタンダード)／160	動画のサイズを選ぶ（59ページ）。
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／セピア／ネガアート／ ■切	画像の特殊効果を設定する（38ページ）。

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
（フォルダ）	実行／キャンセル	再生したい画像の入っているフォルダを選ぶ（42ページ）。
（プロテクト）	―	画像に誤消去防止の指定／解除をする（48ページ）。
DPOF（DPOF）	―	プリント予約マークを付けたい／消したい静止画像を選ぶ（50ページ）。
（プリント）	―	PictBridge規格対応プリンターでプリントする（52ページ）。
（スライドショー）	間隔設定 再生画像 繰り返し スタート キャンセル	– スライドショーの間隔を設定する（44ページ）。（シングル画面のときのみ） ■3秒／5秒／10秒／30秒／1分 – スライドショーで再生する範囲を設定する。 ■フォルダ内／全て – スライドショーを繰り返し再生する。 ■入／切 – スライドショーを実行する。 – スライドショーの設定および実行を中止する。
（リサイズ）	8M／5M／3M／1M／VGA／キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（49ページ）。（シングル画面のときのみ）
（回転）	／／実行／キャンセル	静止画像を左回りまたは、右回りに回転する（45ページ）。（シングル画面のときのみ）
（分割）	実行／キャンセル	動画を分割する（63ページ）。（シングル画面のときのみ）

SET UP項目について

モードダイヤルを「SET UP」にすると、SET UP画面が表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

(カメラ1)

項目	設定	意味
AFモード	シングル／■モニタリング／コンティニュアス	ピント合わせの動作を設定する（25ページ）。
デジタルズーム	スマート／■プレシジョン	デジタルズームのモードを選ぶ（**別冊基本編** → 29ページ）。
日付/時刻	日時分／年月日／■切	画像に日付や時刻を挿入するかどうか設定する（**別冊基本編** → 35ページ）。動画／マルチ連写では、日付・時刻は挿入されません。また、撮影時は日付や時刻は表示されず、再生時に表示されます。
赤目軽減	入／■切	フラッシュ撮影時、被写体の目が赤く写るのを抑制する（28ページ）。
ホログラフィックAF	■オート／切	暗いところで撮影するとき、ホログラフィックAFを発光させるかどうかを選ぶ（**別冊基本編** → 34ページ）。フォーカスを合わせやすいようにするための機能です。
オートレビュー	入／■切	静止画撮影時、撮影直後に記録した画像を自動的に画面に表示するかどうかを設定する。［入］を選ぶと記録画像が約2秒間表示されます。その間は次の撮影はできません。

(カメラ2)

項目	設定	意味
拡大フォーカス表示	■入/切	マニュアルフォーカス時、画面中央部を2倍にして表示するかどうかを設定する(26ページ)。
ホットシュー	入/■切	市販の外部フラッシュを使うときに設定する(30ページ)。
ポップアップフラッシュ	■オート/マニュアル	フラッシュ発光部を自動で持ち上がるようにするかどうかを設定する(28ページ)。

(メモリースティックツール)(/CFスイッチが「 」のときのみ表示されます)

項目	設定	意味
フォーマット	実行/キャンセル	"メモリースティック"をフォーマット(初期化)する。フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、"メモリースティック"に記録されているすべてのデータが消去され、元に戻せませんのでご注意ください(**別冊基本編** → 44ページ)。
記録フォルダ作成	実行/キャンセル	新しいフォルダを作成する(8ページ)。
記録フォルダ変更	実行/キャンセル	画像を記録するフォルダを変更する(9ページ)。

（CFカードツール）（/CFスイッチが「CF」のときのみ表示されます）

項目	設定	意味
フォーマット	実行／キャンセル	マイクロドライブまたはCFカードをフォーマット（初期化）する。フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、マイクロドライブまたはCFカードに記録されているすべてのデータが消去され元に戻せませんのでご注意ください（**別冊基本編** ➡ 44ページ）。コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック　デュオ　アダプターを使ってのフォーマットはできません。
記録フォルダ作成	実行／キャンセル	新しいフォルダを作成する（8ページ）。
記録フォルダ変更	実行／キャンセル	画像を記録するフォルダを変更する（9ページ）。

（設定1）

項目	設定	意味
LCD**明るさ**	明／■標準／暗	液晶画面の明るさを選ぶ。記録される画像に影響はない。
LCD**バックライト**	明／■標準	液晶バックライトの明るさを選ぶ。屋外など明るい場所で使うときに［明］を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。バッテリー使用時のみ表示される項目。
EVF**バックライト**	明／■標準	EVFバックライトの明るさを選ぶことができる。屋外など明るい場所で使うときに［明］を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。
お知らせブザー	シャッター ■入 切	– シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 – マルチセレクター／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 – 音は鳴らない。
A言語	■日本語 English	– メニュー項目・警告表示などを日本語で表示する。 – メニュー項目・警告表示などを英語で表示する。

（設定2）

項目	設定	意味
ファイルナンバー	■連番 リセット	– 記録フォルダを変更したり、記録メディアを取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。 – フォルダごとにファイル番号を0001から付ける。（記録フォルダ内にファイルがある場合は、既存最大番号＋1のファイル番号を付ける。）
USB**接続**	PictBridge／PTP／■標準	本機とパソコンまたはPictBridge規格対応プリンターをUSBケーブルで接続するときのモードを設定する。
ビデオ信号出力	■NTSC PAL	– ビデオ信号出力をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 – ビデオ信号出力をPALモードに設定する（欧州など）。
時計設定	実行／キャンセル	時計を合わせる（6ページ、**別冊基本編** → 17ページ）。

使用上のご注意

置いてはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。

お手入れについて

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

レンズに指紋やゴミがついて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

DCプラグをきれいにする

ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。汚れたままご使用になると、バッテリーが正しく充電されないことがあります。

表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。

本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させないでください。以下はご使用にならないでください。

- シンナー
- ベンジン
- アルコール
- 化学ぞうきん

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0°C〜40°Cです（マイクロドライブ使用時：5°C〜40°C）。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

充電方法

本機をACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切ったまま24時間以上放置する。

- 充電式ボタン電池はバッテリー/“ メモリースティック ”カバーの内部にあるふたの奥に内蔵されています。絶対に取りはずさないでください。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
“メモリースティック”のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての“メモリースティック”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	記録・再生*4
メモリースティック	○
メモリースティック　デュオ*1	○
メモリースティック　デュオ（マジックゲート/高速データ転送対応）*1	○*2*3
マジックゲート メモリースティック	○*2
マジックゲート メモリースティック　デュオ*1	○*2
メモリースティック　PRO	○*2*3
メモリースティック　PRO デュオ*1	○*2*3

*1 本機でご使用の場合は、必ずメモリースティック　デュオ　アダプターに装着してからお使いください。

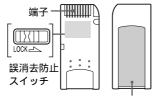
*2 マジックゲート搭載の“メモリースティック”です。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。

*3 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

*4 動画の［640（ファイン）］は“メモリースティック　PRO”または“メモリースティック　PRO　デュオ”でのみ記録／再生できます。

- パソコンでフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証しません。
- お使いの“メモリースティック”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み／書き込み速度が異なります。

“メモリースティック”使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができなくなります。

誤消去防止スイッチの有無や位置、形状は、お使いの“メモリースティック”によって異なることがあります。

- データの読み込み中、書き込み中には“メモリースティック”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - ー読み込み中、書き込み中に“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  - ー静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水に濡らさないでください。

- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  —高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  —直射日光のあたる場所
  —湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“ メモリースティック　デュオ ”使用上のご注意

- “ メモリースティック　デュオ ”を本機でお使いの場合は、必ず“ メモリースティック　デュオ ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。アダプターに装着されていない状態で挿入されますと“ メモリースティック　デュオ ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “ メモリースティック　デュオ ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認ください。
- “ メモリースティック　デュオ ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向を確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- メモリースティック　デュオ　アダプターに“ メモリースティック　デュオ ”が装着されていない状態で、“ メモリースティック ”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。
- “ メモリースティック　デュオ ”をフォーマットするときは、“ メモリースティック　デュオ ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに装着し、“ メモリースティック ”スロットを使用して行ってください。
- “ メモリースティック　デュオ ”に誤消去防止スイッチがついている場合、誤消去防止を解除してお使いください。
- コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック　デュオ　アダプターでもお使いになれますが、本機でのフォーマットと“ メモリースティック　PRO デュオ ”での［640（ファイン）］での記録はできません。

“ メモリースティック　PRO ”使用上のご注意

本機で動作確認されている“ メモリースティック　PRO ”は1GBまでです。

マイクロドライブについて

マイクロドライブはCompactFlash TypeIIに準拠した小型、軽量のハードディスクドライブです。
本機ではマイクロドライブ（日立グローバルストレージテクノロジーズ社製DSCM-11000（1GB））で動作確認を行っております。

マイクロドライブ使用上のご注意

- 一番最初に使うときは必ず本機でフォーマットしてからお使いください。
- マイクロドライブは小型ハードディスクドライブです。回転系記録媒体であるため、フラッシュメモリーを使用した“ メモリースティック ”に比べ振動や衝撃に強くありません。
  マイクロドライブ使用時、特に記録や再生中はカメラに振動や衝撃を与えないよう充分にご注意ください。
- 以下の場合、データが破損したりマイクロドライブそのものが使用できなくなることがあります。
  – データの読み込み中、書き込み中にマイクロドライブを取り出した場合
  – 強い磁気のそばにマイクロドライブを近づけた場合

- 5°C以下の環境でのご使用は、マイクロドライブの性能劣化を招く場合がありますのでご注意ください。
  マイクロドライブ使用時の動作温度：
  ＋5°C～＋40°C
- 気圧の低い場所（海抜3000 m以上）ではご使用になれませんのでご注意ください。
- 高低温時など、転送レートの悪化によりマイクロドライブへの書き込みが間に合わなくなると、「ビジー」と表示され、動画の記録が停止します（93ページ）。
- 使用直後はマイクロドライブが熱くなっている場合があります。取り扱いには充分ご注意ください。
- マイクロドライブのラベルには何も記入しないでください。
- マイクロドライブのラベルをはがさないでください。また、上からラベルを重ねて貼らないでください。
- マイクロドライブの持ち運び時や保管時は、マイクロドライブ同梱の専用保護ケースにいれてください。
- 水に濡らさないでください。
- ラベル面を強く押さないでください。
- マイクロドライブの側面部分を持って扱ってください。また強く押さないでください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

InfoLITHIUM™ M SERIES

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“ インフォリチウム ”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“ インフォリチウム ”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10°C～30°Cの環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、「スライドショー」再生（44ページ）にして、電源が切れるまでそのままにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーごとに異なります。

主な仕様

■ 本体

[システム]

撮像素子 11 mm（2/3型）カラーCCD
原色系4色フィルター（RGBE）

総画素数 約8 314 000画素

カメラ有効画素数
約8 068 000画素

レンズ カールツァイスバリオゾナーT* 7.1倍ズームレンズ
f=7.1～51 mm（35 mmカメラ換算では28 ～200 mm）、F2.0～2.8
フィルター径：58 mm

露出制御 自動、シャッター優先、絞り優先、マニュアル露出、
シーンセレクション（4モード）

ホワイトバランス
オート、太陽光、曇天、蛍光灯、電球、フラッシュ、ワンプッシュ

記録方式（DCF準拠）
静止画：Exif Ver. 2.2 JPEG準拠、RAW、TIFF、DPOF対応
音声付静止画：MPEG1準拠（モノラル）
動画：MPEG1準拠（モノラル）

記録メディア
“メモリースティック”、マイクロドライブ、コンパクトフラッシュカード（TypeI／TypeII）

フラッシュ 推奨撮影距離（ISO感度がオートのとき）
0.5～4.5 m（W）
0.6～3.3 m（T）

ファインダー
電子ファインダー（カラー）

[入出力端子]

A/V OUT（MONO）端子（モノラル）
ミニジャック
映像： 1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
音声： 327 mV（47 kΩ負荷時）
出力インピーダンス 2.2 kΩ

ACC端子 ミニミニジャック（ø2.5 mm）

USB端子 mini-B

USB通信 Hi-Speed USB（USB2.0 High-Speed対応）

[液晶画面]

液晶パネル 4.6 cm（1.8型）TFT駆動

総ドット数 134 400（560×240）ドット

［ファインダー］

液晶パネル 1.1 cm（0.44型） TFT駆動

総ドット数 235 200（980×240）ドット

［電源・その他］

使用バッテリー
NP-FM50

電源電圧バッテリー端子入力
7.2 V

消費電力（撮影時、液晶画面オン）
2.2 W

動作温度 0°C～＋40°C（マイクロドライブ使用時：＋5°C～＋40°C）

保存温度 －20°C～＋60°C

外形寸法（W端時）
134.4 × 91.1 × 157.2 mm
（幅×高さ×奥行き、最大突起部を除く）

本体質量 約955 g（バッテリーNP-FM50、"メモリースティック"、ショルダーストラップ、レンズキャップなど含む）

マイクロホン
エレクトレットコンデンサマイクロホン

スピーカー ダイナミックスピーカー

Exif Print 対応

PRINT Image Matching II 対応

PictBridge 対応

■ ACアダプター AC-L15A/L15B

電源 AC 100～240 V、50/60 Hz

消費電力 18 W

定格出力 8.4 V DC*

* その他の仕様についてはACアダプターのラベルをご覧ください。

動作温度 0°C～＋40°C

保存温度 －20°C～＋60°C

外形寸法（最大突起部をのぞく）
約56×31×100 mm
（幅×高さ×奥行き）

質量 約190 g（本体のみ）

■ バッテリーNP-FM50

使用電池 リチウムイオン蓄電池

最大電圧 DC8.4 V

公称電圧 DC7.2 V

容量 8.5 Wh（1 180 mAh）

付属品

- ACアダプター（1）
- 電源コード（1）
- バッテリーパックNP-FM50（1）
- USBケーブル（1）
- A/V接続ケーブル（1）
- ショルダーストラップ（1）
- レンズキャップ（1）
- レンズキャップ用ひも（1）
- レンズフード（1）
- CD-ROM（USBドライバSPVD-013）（1）
- CD-ROM（Image Data Converter）（1）
- サイバーショット基本編（1）
- サイバーショット応用編／困ったときは（1）
- 安全のために（1）
- 保証書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラや記録メディアなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

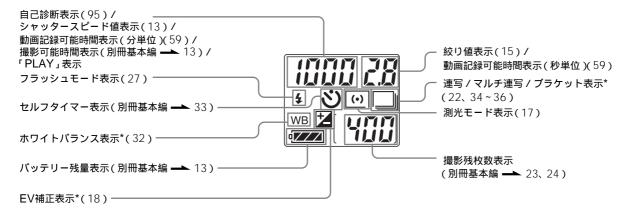
部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

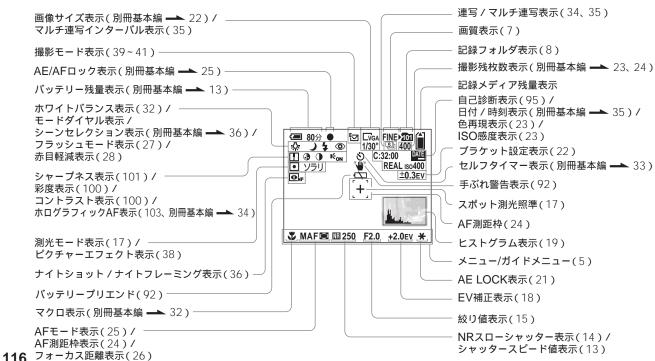
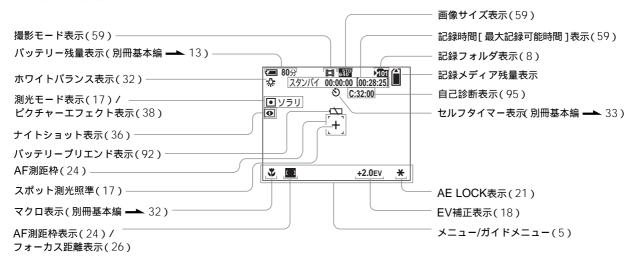
表示窓の表示

カッコ内の数字はページ数です。

* 液晶画面/ファインダーと違って、現在選択されているモードのマークや設定値は表示窓に表示されません。モードや設定値を変更しても、表示窓のマークは変わらないので、ご注意ください。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

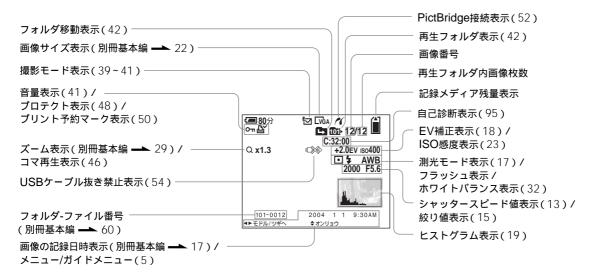
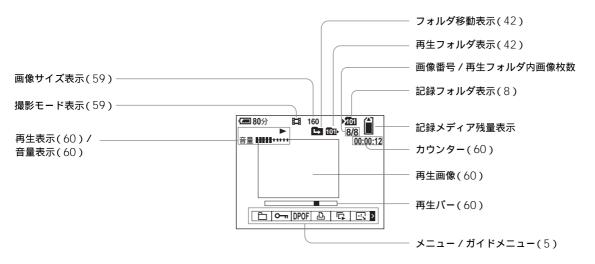
画面上の表示

カッコ内の数字はページ数です。

静止画撮影時：液晶画面／ファインダー

動画撮影時：液晶画面／ファインダー

• メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

その他

静止画再生時：液晶画面／ファインダー

動画再生時：液晶画面／ファインダー

- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡ ページ番号**」のようにご案内しています。

機能早見表

ここでは、モードダイヤルや各機能の設定によって、シャッタースピードや絞り、フラッシュなどの設定がどのように制限されるかを、撮影に関する項目を中心に説明します。

モードダイヤルによる露出／ホワイトバランス／オートフォーカス早見表

	シャッタースピード（秒）	絞り	ISO	ホワイトバランス	測光モード	AF測距枠
	オート（1/8〜1/3200）	オート（F2〜F8）	オート（64〜200）	オート	マルチパターン	マルチポイント
P	オート（1〜1/3200）	オート（F2〜F8）	オート（64〜200）/ 64〜800で設定可能	設定可能	設定可能	設定可能
S	30〜1/2000で設定可能	F2〜F8	オート（64に固定）/ 64〜800で設定可能	設定可能	設定可能	設定可能
A	8〜1/2000（絞り値F2〜F7.1）	F2〜F8で設定可能	オート（64に固定）/ 64〜800で設定可能	設定可能	設定可能	設定可能
	8〜1/3200（絞り値F8）					
M	30〜1/2000（絞り値F2〜F7.1）	F2〜F8で設定可能	オート（64に固定）/ 64〜800で設定可能	設定可能	設定可能	設定可能
	30〜1/3200（絞り値F8）					

- フラッシュ発光時はシャッタースピード、ISO感度は上記に従いません。
- デジタルズーム時またはホログラフィックAF発光時、AF測距は自動的に中央の被写体を優先したAF動作となります。

フラッシュモード対応表

モードダイヤル		通常撮影/Eメール/ボイスメモ/RAW/TIFF	連写	ブラケット	マルチ連写	NIGHTSHOT	NIGHTFRAMING
📷		オート/⚡/⊘/⚡SL	⊘	⊘	⊘	⊘	⚡
P		オート/⚡/⊘/⚡SL	⊘	⊘	⊘	⊘	⚡
S		⚡/⊘	⊘	⊘	⊘	—	—
A		⚡/⊘/⚡SL	⊘	⊘	⊘	—	—
M		⚡/⊘	⊘	⊘	⊘	—	—
SCN	夜景	⊘	—	—	—	—	—
	夜景＆人物	⚡SL	—	—	—	—	—
	風景	⚡/⊘	⊘	⊘	⊘	—	—
	ポートレート	オート/⚡/⊘/⚡SL	⊘	⊘	⊘	—	—

- 動画撮影時は⊘（発光禁止）になります。
- 「SET UP」の［ポップアップフラッシュ］が［マニュアル］のときは、⚡（強制発光）または⚡SL（スローシンクロ）、⊘（発光禁止）になります。

シャッタースピードと絞りの関係

きれいな写真を撮るには、ピントなどの設定以外にも露出を合わせることが大切です。露出とは、絞りとシャッタースピードの値により決まる光の量のことです。

シャッタースピードは「時間」の長い・短いで光量を調節しますが、絞りは「穴」の大きい・小さいで光量調節します。同じ露出を得るためには、シャッタースピードを1段速くすると絞りを1段開くことになります。

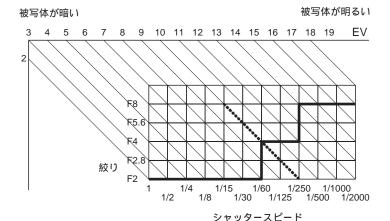
プログラム線図の動き

プログラム線図は、シャッタースピードと絞り値がどんな組み合わせでシフトしていくかを表した図です。

▬▬ プログラム線図（例）

■ ■ ■ プログラムシフトの動き（例）
（EV：10、ISO感度：100）

プログラムシフト（12ページ）とは、カメラが決めた露出の組み合わせを素早くシフトできる機能です。

- EV値が同じならば、撮影される画像の明るさは同じになります。

用語の解説

色温度（32ページ）
光の色を数値で表したもので、光源自体の温度ではなく、光の色を人間の目に見える感覚に置き換えて表した数値のことです。単位はK（ケルビン）が用いられます。色温度が低くなるほど赤みを、色温度が高くなるほど青みを帯びた光に感じます。

インストール（別冊基本編 ➡ 48ページ）
ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込み、使用できる状態にします。

“インフォリチウム”バッテリー（111ページ）
“インフォリチウム”に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーのことです。

オートパワーオフ機能（別冊基本編 ➡ 16ページ）
電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機の電源は自動的に切れます。

シャッタースピード
撮影時にCCDに光を当てる時間のことです。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写ります。

スマートズーム（別冊基本編 ➡ 29ページ）
極めて画質劣化の少ない、画質を優先したデジタルズームです。光学ズームと同じような感覚で使うことが可能です。ただし、最大ズーム倍率は設定している画像サイズによって異なります。

ドライバ（別冊基本編 ➡ 48ページ）
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピューター側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。

半押し（別冊基本編 ➡ 25ページ）
シャッターボタンを押し込まず、半分押しした状態にしておくことです。シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に合わせてピントと露出を自動で調整します。

被写界深度（16ページ）
被写体にピントを合わせると、その被写体の前後の像にぼけを生じますが、実用上ピントが合っているとみなせる範囲のことを被写界深度といいます。
この範囲が広いときは「被写界深度が深い」、また範囲が狭いときには「被写界深度が浅い」といいます。

ピント（別冊基本編 ➡ 25ページ）
被写体に対する焦点のことです。本機はピントを自動で調整します。手動で調整することもできます。

フォーマット（別冊基本編 ➡ 44ページ）
「初期化」とも言います。記録メディアにデータを書き込めるようにすることです。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消えます。

フォルダ（8、42ページ）
本機で撮影した画像をまとめて格納する場所のことです。ファイルを分類するときに便利です。

プレシジョンデジタルズーム（別冊基本編 ➡ 29ページ）
ズーム倍率を優先したデジタルズームです。画像をデジタル処理することにより、画像サイズの設定に関係なく常に最大で光学ズーム倍率の2倍のズームが可能になります。画像サイズ、ズームポジションによっては、スマートズームより画質が劣化することがありますが、一般的なデジタルズームに比べて劣化の少ない画質が得られます。

ホワイトバランス（32ページ）
光源に合わせて色を調整する機能のことです。被写体の見た目の色は光の状況に影響されます。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく映ります。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影することができます。

"メモリースティック"（109ページ）
小さくて軽く、フロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。

有効画素数
CCDが光から電気信号に変換できる画素数です。有効画素数から画像処理したものが記録画素数になります。

露出（16、18ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光の量のことです。

AE（**別冊基本編 ➡** 25ページ）
「Auto Exposure」の略です。
被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能のことです。

AF（**別冊基本編 ➡** 25、27ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能のことです。

CCD（112ページ）
「Charge Coupled Device」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種です。

DCF（**別冊基本編 ➡** 4ページ）
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格です。

DPOF（50ページ）
「Digital Print Order Format」の略で、「ディーポフ」と読みます。プリント予約したい写真を記録メディア上に指定することができます。

EV（18ページ）
「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位のことです。

Exif（113ページ）
（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです。

ISO（23ページ）
「イソ」と読みます。
カメラフィルムの光に対する感応度のことです。ISO単位で表します。数値が大きいほど高感度の撮影ができます。

JPEG（**別冊基本編 ➡** 61ページ）
「ジェイペグ」と読みます。インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式のことです。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

MPEG（**別冊基本編 ➡** 61ページ）
「エムペグ」と読みます。カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮形式が得られます。本機では、動画撮影時、MPEG形式で画像を保存します。

OS（**別冊基本編 ➡** 47ページ）
「Operating System」の略で、コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのことです。

PictBridge（52ページ）
「ピクトブリッジ」と読みます。
カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。PictBridge規格対応のプリンターと本機を接続して、画像ファイルをプリントすることができます。

PTP（106ページ）
「Picture Transfer Protocol」の略です。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法です。

RAW**データ**（39ページ）
「ロー」と読みます。
CCDの生データをそのまま保存するため、圧縮、保存、解凍による画像劣化がないファイル形式です。専用ソフトウェアで画像処理を行い、「現像」します。画像補正機能を使用することによって、最適な画像を創ることができます。

TIFF（40ページ、**別冊基本編** ➡ 61ページ）
「ティフ」と読みます。静止画の保存形式のひとつで、画像データを圧縮しないため、画像が劣化しません。本機では、TIFFモードでの撮影時にTIFF形式でJPEG方式画像を保存します。

USB（**別冊基本編** ➡ 47ページ）
「Universal Serial Bus」の略です。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格です。

VGA（**別冊基本編** ➡ 23ページ）
「Video Graphics Array」の略で、640×480の画像サイズのことです。

索引

数字の前に「基」がついているページは別冊基本編のページです。

ア行

赤目軽減 28
アクセスランプ 基20
アドバンストアクセサリーシュー 30
色再現 34
インストール .... 65、69、基48
インデックス画面 基38
インフォリチウムバッテリー 111
液晶画面の明るさ調節 105
オート撮影 基25
オートパワーオフ機能 基16
オートフォーカス ....24、基27
オートレビュー 103
お知らせブザー 105
お手入れ 107

カ行

海外で使うとき 基15
回転 45
画質 7
画像サイズ .... 基22、基23
画像再生 .... 60、基38
画像削除 .... 61、基41
画像のファイル名 基60
画像の保存先 基60
画面表示 .... 116〜119
画面表示の切り換え 基28
機能早見表 120
近接（マクロ）撮影 基32
クイックレビュー 基27
警告表示 91
結露 108
コマンドダイヤル 6
コンティニュアスAF 25
コントラスト 100
コンパクトフラッシュ 基19

サ行

再生ズーム 43
彩度 100
撮影 .... 59、基25
撮影可能枚数 ....96〜98、基14、基23、基24
撮影可能時間 .. 97、98、基14
残量表示 基13
自己診断表示 95
視度調節 基28
絞り優先 15
シャープネス 101
シャッタースピード優先 13
充電時間 基13
充電方法 基12
シングルAF 25
シングル画面 基38
シーンセレクション 基36
ズーム撮影 基29
スピード優先連写 34
スマートズーム 基29
スライドショー 44
静止画オート撮影 基26
静止画再生 基38
静止画削除 基41
静止画撮影 基25
静止画取り込み 基53
セルフタイマー 基33
測光モード 17

タ行

中央重点AF 24
デジタルズーム 基29
テレビで見る 基40
電源の入/切 基16
動画再生 60
動画削除 61
動画撮影 59
動画の分割 63
時計設定 .... 6、106、基17
トリミング 44

ナ行

ナイトショット 37
ナイトフレーミング 37

ハ行

パソコンの画像取り込み .... 67、71、基53
バッテリーの充電時間 基13
バッテリーの充電方法 基12
バッテリーの使用時間 基14
ピクチャーエフェクト 38
ヒストグラム 19

日付・時刻合わせ .... 103、基17
日付・時刻挿入 基35
ビデオCD 76
表示窓 115
ピント合わせ ....26、基27
ファイル名 基60
ファイル保存先 基60
ファインダー 基28
フォーマット 基44
フォルダ .... 8、42
ブラケット 22
フラッシュ撮影 ....27、基33
フラッシュレベル 30
プリント予約マーク 50
フレーミング優先連写 34
フレキシブルスポットAF ... 24
プレシジョンデジタルズーム 基29
プログラムオート撮影 ....12、基26
プログラムシフト 12
プロテクト 48
分割 63
ボイスメモ 41
ホットシュー 104
ポップアップフラッシュ 28
ホログラフィックAF .... 103、基34
ホワイトバランス 32

マ行

マイクロドライブ 110
マイクロドライブの入れかた 基21
マクロ撮影 基32
マニュアルフォーカス 26
マニュアル露出 16
マルチセレクター 基16
マルチポイントAF 24
マルチ連写 .... 35、46
メニュー .... 5、99
“メモリースティック”...... 109
“メモリースティック”の入れかた 基20
モードダイヤル 基25
モニタリングAF 25

ラ行

リサイズ 49
連写 34
レンズフード 基11
露出補正 18

アルファベット

ACアダプター ..... 基12、基15
AE 基25
AEロック 21
AE/AFロック .... 基25、基27
AF 基25
AF測距 24
AFモード 25
A/V接続ケーブル 基40
CD-ROM 基48
CF 基19
DCプラグ .... 基12、基15
DPOF 50
Eメール 40
EV補正 18
ImageMixer 69
ImageTransfer 65
ISO 23
JPEG 基61
MPEG 基61
NIGHTFRAMING 37
NIGHTSHOT 37
NRスローシャッター 14
NTSC/PAL 106
PictBridge 52
RAW 39
RESETボタン 77
SET UP .... 6、103
TIFF 40
USB .... 基52、基63
USBドライバ ...... 基48、基63
VGA .... 125、基23

電話のおかけ間違いにご注意ください。

お客様へのサポートをより充実させていくため、「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「カスタマー登録のご案内」をご覧ください。

■ **カスタマーご登録およびご登録内容の変更：**
http://www.sony.co.jp/di-regi/
お問い合わせ：**ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク**
電話：0466-38-1410
受付時間：**月〜金曜日　午前10時〜午後6時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

ご使用上での不明な点や技術的なご質問

テクニカルインフォメーションセンター
電話：　0564-62-4979
（電話のおかけ間違いにご注意ください。）
受付時間：　月〜金曜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話の前に以下の内容をご用意ください。
①お客様のID
（カスタマーご登録していただくとIDが発行されます。）
②本機の型名（本機底面をご覧ください。）
③本機の製造番号（本機底面をご覧ください。）

修理申し込み

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合左記のテクニカルインフォメーションセンターへお電話ください。
お客様のお宅まで指定宅配便で取りにおうかがいします。

ImageMixer for Sonyに関するお問い合わせ窓口

ピクセラユーザーサポートセンター
電話：　072-224-0181
受付時間：月〜日曜日　午前9時〜午後5時（ただし、年末、年始、祝日を除く）
http://www.imagemixer.com

3084997 04

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35
http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、
パソコン接続に関する情報を掲載しています。